



Doshisha Glee Club
The 81st Annual Concert

Doshisha College Song

One purpose Doshisha, thy name
Doth signify our lofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Thou ' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide.

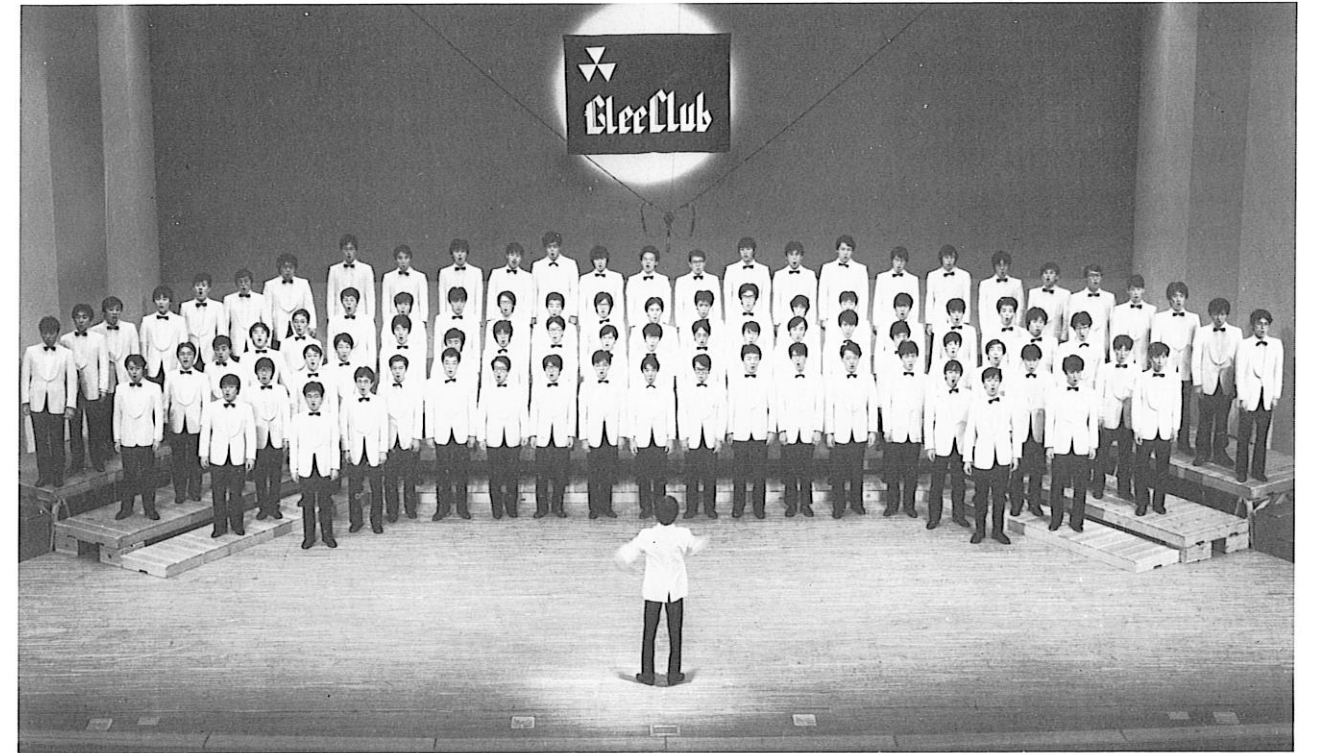
Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our Earth
Still higher than selflove we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life divine.
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and Brotherhood.



同志社グリークラブ 第81回定期演奏会

1985年12月20日(金)/ザ・シンフォニーホール

5:00P.M.開場/6:00P.M.開演



御挨拶

本日はご多忙の折、私達同志社グリークラブ第81回定期演奏会にお越し下さりまして誠にありがとうございます。

価値観の多様化の様相がますます極まる時勢の中であって、“己”を律し、頑強な意志をもって行動することは、我々学生という比較的自由的な身分では困難至極のように錯覚しがちです。個々人が自分自身に対する厳しさを、他人との協調性の名のもとにすりかえることによって、空虚な安寧に身を委ねているのでないでしょうか。一旦、安きに甘んじてしまうと再び立ち上がるのに多大な労力と時間、そして勇気を要します。

何が真に重要なのか判らずに、日常生活に埋もれ、ただ押し流されていく——そのような中から這い上がり、合唱音楽という創造活動を通して、自己の可能性を追求しようと部員一同、真正面から立ち向って日々努力してまいりました。さらに来春の欧州演奏旅行、そして新学期には、田辺新キャンパス移転による1・2年次、3・4年次分断という新たな局面を迎えようとしています。いかなる困難にも屈することなく今後も邁進していく覚悟です。

今宵のステージ、そんな私達グリーメンの情熱と心から溢れ出る音楽が、皆様との間に尽きることのない感動を生むことができましたなら、これに優る喜びはございません。

最後になりましたが、未熟な私達を熱心にご指導くださった諸先生方、諸先輩方、この演奏会を開催するにあたってご協力を頂きました関係各位に部員を代表して、心からお礼申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

幹事長 高梨 純

DOSHISHA COLLEGE SONG

作詩 W.M.Vories

作曲 Carl Wilhelm

I. 男声合唱組曲 「月光とピエロ」

1. 月夜
2. 秋のピエロ
3. ピエロ
4. ピエロの嘆き
5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

作詩 堀口 大学

作曲 清水 脩

指揮 福永陽一郎

II. Lob der Musik

——金管アンサンブルと男声合唱のための
音楽への讃歌—— (本邦初演)

1. Lob der Musik
2. Was die Musik zusammenhält

作詩 Chr.Weise

作曲 Johannes H.E.Koch

3. Lob der Musik

- i) Chor (Johann Staden)
- ii) Rezitativ (C.W.Gluck)
- iii) Chor (L.Lechner)
- iv) Rezitativ (M.Luther)
- v) Chor (H.L.Hassler)
- vi) Rezitativ (M.Luther)
- vii) Chor (Spruch an einer alten Hausorgel)

作曲 Siegfried Strohbach

指揮 富岡 健

管楽器 森下治郎ブラスアンサンブル

INTERMISSION

III. Ein Liebesliederbuch (愛の詩集)

1. Allerseelen (万霊節)
2. Heimliche Aufforderung (ひそやかなる誘い)
3. Traum durch die Dämmerung (たそがれの夢)
4. Wiegenlied (子守歌)
5. Ich trage meine Minne (愛を抱きて)
6. Cäcilie (ツェツィーリエ)

作曲 Richard Strauss

編曲 福永陽一郎

指揮 神谷 伸行

ピアノ 長田 育忠

IV. バリトン独唱と男声合唱のための「レクイエム」

1. 第1楽章
2. 第2楽章
3. 第3楽章
4. 第4楽章
5. 第5楽章

作曲 三木 稔

指揮 福永陽一郎

独唱 山本 健二

ピアノ 久邇 之宜

一月夜

月の光の照らす途に
 ピエロはさびしく立ちたけり
 ピエロの姿白ければ
 月の光に濡れにけり
 あたりをみても見まわせば
 コロンビイヌの影もなし
 ピエロは涙ながりけり

二秋のピエロ

泣き笑いでわがピエロ
 秋はさびしくと歌うなり
 Oの形の口をさへ
 秋はさびしくと歌うなり
 月の光に照らす白粉の
 顔が涙を流すなり
 身すぎせすきの是非もなく
 おどけたれどもわがピエロ
 秋はさびしくと身にしるなり
 眞実涙を流すなり

三ピエロ

ピエロの白さ
 身のつらさ
 ピエロの顔は
 眞白け
 白くあかしく
 みゆれども
 ピエロの顔は
 さびしかり
 ピエロは月の
 月の光なり
 白くあかしく
 みゆれども
 月の光は
 さびしかり
 かなからずや身はピエロ
 月の嬾の父無見
 月けみ空に身はこゝに
 身すぎせすきの泣き笑い

四 ピエロの嘆き

五 月光とピエロとピエレットの
 唐草模様
 月の光に照らされて
 ピエロ ピエレット
 踊りけり
 ピエロ ピエレット
 月の光に照らされて
 ピエロ ピエレット
 歌いけり
 ピエロ ピエレット
 踊りけり
 ピエロ ピエレット
 歌いけり
 ピエロ ピエレット
 踊りけり
 ピエロ ピエレット
 月の光に照らされて
 ピエロ ピエレット
 月の光に照らされて

「月光とピエロ」

人には、言っても仕方がないことを、あえて口にしたくなる、そんな話題があるもので、古いけれども有名な『もしもクレオパトラの鼻がもう少し低かったら』という世界歴史にかかわる重大問題である。『もしも清水脩作曲の《月光とピエロ》がなかったら』というテーマも、世界歴史とまでゆかなくても、日本の合唱音楽の通ってきた道がまったく別のものであったかも知れない、重大仮定だということが出来る。《月光とピエロ》の中でいちばん始めに作曲された《秋のピエロ》は、この一作だけで作曲者の名前が後世に残る、文字どおり不朽の名作で、組曲《月光とピエロ》も、それぞれの曲がこの《秋のピエロ》との関係で正しいバランスの緊張を維持しているからこそ、ただの小曲集でなくて、『合唱組曲』という有機的な形式を安定させているのである。

この『合唱組曲』という欧米には存在しない構成と形式が、日本においてだけ流行し隆盛し完成し、合唱演奏会全体のプログラム・ビルも、いくつかの『組曲』を順に並べる“ステージ構成”が普通になったのも、元はといえば《月光とピエロ》というパーフェクトな合唱曲が、たまたま『合唱組曲』という形式と呼称を持っていて、この新形式への憧憬、模倣、追従が、止まることなく続いた結果なのである。(組曲形式によったために、うまくまとまりのついた合唱曲も多く、功罪いずれとも決着つけ難い)

『もしも《月光とピエロ》がなかったら』、ヨーロッパで発生し、日本へはアメリカ経由ではいつてきた『合唱のたのしみ』の中には無かった『合唱組曲』という形式が、出現し存在したことによって、発生し増殖したいろいろな窮屈さを、知らずにすんだかもしれない。そのかわり、あの完成された男声合唱組曲《月光とピエロ》を持つこともなかったわけで、だから、このような話題は、口に出して言っても仕方が無いのである。

福永 陽一郎

Lob der Musik —金管アンサンブルと男声合唱のための音楽への讃歌—

作曲家について

Koch, Johannes H. E

1918年に生れる。ライプツヒ音楽院で宗教音楽を学んだあと、デトモルト音楽院でGünter Bialasに師事。

1948年よりHerfordのウエストファリアン大学で作曲を教える一方、同地の教会音楽家として活躍。また西ドイツラジオ協会の放送のために合唱音楽を多数指揮している。

Strohbach, Siegfried

1929年に生れる。1946年から49年までフランクフルト音楽大学で日本でも知られているクルト・トーマスに作曲と指揮法を師事。

ハノーバー州立劇場の指揮者としてオペラやコンサートに活躍するほか、コレギウム・カントリウム合唱団を設立し、指揮にあっている。

1966年よりハノーバー音楽大学の教授を勤めている。多数の合唱と器楽アンサンブルのための作品を書いている。

作品について

(1) Lob der Musik

J.H.E. Koch

スコア上に、5声の金管アンサンブルの楽器指定はなされていないが、楽譜を検討したところ、トランペット3本、トロンボーン2本が最もふさわしいと判断できる。

金管のみによる前奏曲のあと、同じ節が合唱によって「すべての世界に音楽をたたえよ」と力強く歌い出される。

アラ・ブレイブで始まり、中間部に軽快な三拍子を配置するというルネッサンス音楽に頻繁に使われている手法がもちいられている。

(2) Was die Musik zusammenhält

J.H.E. Koch

Lob der Musik 同様、金管による牧歌的なテーマが提示されたあと、合唱が6つのヴァリエーションを展開する。

(3) Lob der Musik

Strohbach

トランペット3本、ホルン2本、トロンボーン3本の指定が明記されている。また児童合唱がアドリブとして書かれているが、本日の演奏は、これを割愛した。

全体に7つの部分に分けられるが、一つ一つ異なった人の詩に作曲されている。第1、3、5、7曲は、それぞれ個性的ながらも、明るい躍動感にあふれ、音楽の讃美が歌われる。また、それぞれの曲の間には、合唱全員によるレシターティヴォが置かれ、小規模ながらも、完全なオラトリオ形式にまとめられている。

管楽伴奏 森下治郎ブラスアンサンブル

プロフィール

あらゆる演奏形態の原点であるルネッサンスからバロック期にかけての音楽を研究、演奏活動の軸として、現代の楽器の持つ表現能力をフルに生かし、より純粋で象徴的なアンサンブルを創り上げる事を目的として1981年3月発足。以来、毎年、玉造マリア大聖堂でのコンサートを初め、各地でのコンサート、中高生の為の音楽会等意欲的な活動を続け、その新鮮な響きと音楽で好評を博しartisticな金管合奏団として着実な歩みを続けている。特に昨年の第3回定期演奏会では、その成果に対し大阪文化祭奨励賞を受賞している。又、NHK洋楽オーディションにも合格し「午後のリサイタル」や「音楽アルバム」等にも度々出演している。

主宰する森下治郎は、1971年大阪教育大学特設音楽科を卒業後テレマン協会のソロトランペット奏者として演奏活動を始める。1974年ベルギー留学の後、大阪・東京で過去4回のリサイタルを行い、その成果に対して大阪文化祭賞、同奨励賞、音楽クリティッククラブ奨励賞、同新人賞等数々の賞を受賞している。又、全国各地の合奏団、オルガニストとの協演や放送に幅広い活動が続けるかたわら、大阪芸術大学でトランペットと室内楽の指導にあっている。



Lob der Musik (J.H.E. Koch)

Lob der Musik in aller welt!
Wer hält sie nicht in Ehren!
Sie ist ein Werk, das Gott gefällt,
und das die Engel hören.
Drum lasst uns jetzt singen in Liedern zu preisen,
der Musika kräfte und Ehre bewaisen.

Was die Musik zusammenhält (J.H.E. Koch)

Was die Musik zusammenhält,
das soll uns niemand trennen,
und wenn wir dafür Geld und Gut
der ganzen Welt gewannen!
Was die Musik zusammenhält,
das soll niemand verscherzen!
Sie löst der Zunge scheuen Bann,
und öffnet alle Herzen!
Was die Musik zusammenhält,
das soll uns niemand spalten!
Sie wirkt Freude und gibt
kraft den Jungen wie den Alten.
Was die Musik zusammenhält,
das soll uns niemand lösen!
Sie läutert unsrer Seele Erz
und wehret allem Bösen!
Was die Musik zusammenhält,
das soll niemand vergeben!
Sie stillt unser fahrend Blut
und ordnet unser Leben!
Was die Musik zusammenhält,
das soll uns niemand rauben!
Sie fiel aus Gottes grasser Hand
und mehret unsern Glauben!

Lob der Musik (S. Strohbach)

1. Chor (J. Staden)

Fangt an und sing was lieblich klingt,
lasst hören allzumal
die Instrument mit Schall
denn die Musika gut mich sehr
erfreuen tut.

2. Rezitativ (C.W. Gluck)

Ich betrachte die Musik nicht nur als
eine Kunst das Ohr zu ergötzen,
sondern als eins der grössten Mittel,
das Herz zu bewegen.

3. Chor (L. Lechner)

Mit Tanzen und mit Springen,
mit Musizieren und Singen schaff
Ich mir jederzeit, kurzweil und grosse Freud.
Man sucht Freud in vielen Dingen
Ich jedoch, ich bleibe beim Singen
und beim instrumenten spiel,
Weiter frage ich nicht viel.
Denn kann man was fürbringen
das fröhlich macht wie singen
in Lieblichkeit und Ehr?
Nein, wahrlich nimmer mehr.

4. Rezitativ (M. Luther)

Wer nicht Gefallen hat an solch
lieblichem Wunderwerk wie Musika eins ist,
das muss ein rechter Ochse sein.

5. Chor (H.L. Hasler)

Wer singt, der sing dass es wohl kling
und tu die Stimm recht führen
Schrei nicht zu sehr, tu sich viel mehr
fein lieblich melodieren.
auf dass gar frei die Melodei zum Text mög
konkordieren, denn sonst der gesang sein Ton
und Klang tut ganz und gar verlieren.
Drum Jedermann, wer singen kann, der lobe Gott
den Herren, der solche Kunst aus Gnad
und Günst uns selbst, darum tut lehren,
auf dass wir all mit hellem Schall
sein Güte und Gnade preisen, die er
allzeit aus Gütigkeit uns allen tut bewaisen.

6. Rezitativ (M. Luther)

Die edle Musik ist nach Gottes Wort
der höchste Schatz auf Erden,
Sie regiert alle Gedanken Sinn, Herz und Mut.
Willst du einen Betrübten fröhlich machen,
einen frechen, wilden Menschen zähnen,
dass er gelinde werde, einem Zagnäftigen
einen Mut machen, einen Hoffärtigen zur
Demut reizen. Was kann besser da zu dienen,
denn diese hohe, teure, werte und edle Kunst?

7. Chor (Spruch an einer alten Hausorgel)

Die Musik allein die Tränen abwischet,
die Herzen erfrischet,
Wenn sonst nichts hilflich will sein.

音楽への讃歌 (ヨハネス・H.E. コッホ)

すべての世界に音楽を讃えよ /
その栄光を讃えないものはいない /
音楽は神が喜び
天使が聞く作品である
だから今、歌いましょう
それは音楽の力を誉め讃え、栄光を示すため

音楽が結びつけるもの (ヨハネス・H.E. コッホ)

音楽が結びつけるものは
誰もわけはいけない
音楽の代わりに
全世界のお金と富をもらっても
音楽が結びつけるものは
失ってはいけない
音楽は弁舌を豊かにし
すべての人の心を開くであろう
音楽が結びつけるものは
誰もわけはいけない
音楽は喜びをもたらす
老いも若きも力を与えられる
音楽が結びつけるものは
誰も離してはいけない
音楽は私たちの心洗う
あらゆる悪から防衛する
音楽が結びつけるものは
誰も捨ててはいけない
音楽は旅に出たいという気分を抑えてくれ
心を落ち着かせてくれる
音楽が結びつけるものは
誰も奪ってはいけない
音楽は神の偉大なる手から与えられ
私たちの信仰を強くする

音楽への讃歌 (シユトローバハ)

1. 合唱 (シユターデン)

始めよう
きれいな歌を歌おう
聞かせよう
音楽の音色をいつまでも
よい音楽は私を喜ばせてくれる

2. 独唱 (グリユック)

音楽は
耳を喜ばせる芸術にとどまらず
人間の心に感動を与える
最も大事な手段であると思う

3. 合唱 (レツヒネル)

ダンスや踊りや音楽や歌は
いつも私に
大きな喜びや気晴らしを与えてくれる
人々は多くのものに
喜びを求める

しかし私は、歌を歌い
楽器を弾く以外に何も求めない
美しさと栄光をもつて
歌を歌うことほど
人を喜ばせるものがあるうか
いいえ、決してありません

4. 独唱 (マルチン・ルター)

音楽のような
素晴らしい作品を楽しまない人は
本当の馬鹿に違いない

5. 合唱 (ハツセル)

歌う人は正しく歌いましょう
声を正しく出しましょう
あまり大きな声で歌わないで
むしろ美しくきれいに旋律を奏でましょう
それは旋律と歌詞が良く合うためである
正しく歌わなければ

その歌は音色と美しさを失ってしまう
歌を歌うことが出来るすべての人が
主である神を誉め讃えよう
恵みや寵愛の神が

私たちにこの歌の芸術を教えて下さる
それは私たちが神からいつも与えられる
慈悲と恵みを明るく誉めるためである

6. 独唱 (マルチン・ルター)

崇高なる音楽は神の言葉と並んで
地上の最高の宝である
音楽はすべての心情を治める
寂しい人を喜ばせよう
厚かましい粗野な人間を穏やかにさせよう
と
臆病な人に勇気を与えよう
と
横柄な人に畏敬の念を抱かせよう
と…

そのために何よりも有益なのは
この崇高なる重要な価値ある芸術である

7. 合唱 (終曲～音楽への讃歌)

音楽だけが涙をぬぐい
心を励ませてくれる
他の何もが助けにならないとき…

Ein Liebesliederbuch (愛の詩集)

〈演奏する前に〉

R・シュトラウスといえば「ティル・オイレンシュピーゲル」、「ドン・ファン」や「ばらの騎士」、「サロメ」等一連の交響詩やオペラが有名であり、大方がこれらの管弦楽曲を思い浮かべるだろう。しかしそれらが失われることはあっても永遠に輝き続ける珠玉の歌曲が数多くあることはあまり知られていないようだ。今日演奏する曲には、日頃調性の厳しい音楽にさらされている人にとって少し戸惑うような異名同音転調が所々あったりするが、もちろんベートーベン、ブラームス、ワーグナーと続いたいわゆるドイツ正統派音楽の最後の巨匠である彼の作品には、そういう部分にも諧謔性こそあれ、現代日本の若手作曲家お得意の意味のない単なる思いつきのようなくだりは見られない。1893年彼は、ワーグナーの影響を受けた歌劇「グントラム」を完成したが、これが不評に終わり失意のうちに4曲の歌曲を書いた。これが「MORGEN! (明日こそは)」に代表される作品27の作品群である。これ以後彼は、歌劇「サロメ」などの傑作を次々と発表、巨匠の地位を築いていったのであり、これら愛に満ちた歌曲が作曲家の心の支えになっていたことが察せられる。また去年ジェシー・ノーマン(S)、オケ伴奏による彼の歌曲集、「四つの最後の歌」がヨーロッパで爆発的な人気を呼び、日本でもフィッシャーティスカウ、イエルザレム、ルチア・ポップなど再録を含め次々とレコードが出るなど、最近人気を集めている。

演奏にあたって特に気をつけていることはやはり、ドイツ正統派音楽をどう作りあげるかである。これは私見だが、大学合唱団には音楽そのものを楽しむよりも演奏会イコール日頃の苦勞の発表会のような傾向があり、それさえうまくいけば云々という考え方が多少なりとも見られる。だから指揮者がどんな曲を選ぼうとおかまひなしで、部員同志ではその曲の意味や流れやとらえ方に関しての談義はほとんどされていないだろうと思う。こうした受け身の姿勢から良い音楽は生まれず、命令によって歌わされるのは全く面白くない。それならば〇〇先生や△△先生ではなく、学生指揮者で、つまり実力でこの「正統派」にぶつかってみようと思つたことが今、私を支えているのである。幸い編曲も原曲の意図に誠実で、色彩豊かでそれでいて官能的な歌曲を合唱曲として存在せしめるに不必要な操作はなされていない。また音域が限られている為に良い音楽の演奏に参加できない残念さも克服でき、曲の良さを伝えるのにむしろ編曲による方が効果的な部分さえある。

ステージはショー・ケースではない。生きた音、メッセージがそこになければならない。いきいきした演奏をしたい。



Richard Strauss



指揮中のシュトラウス

I. Allerseelen (Herman von Glim)

Stell auf den Tisch die duftenden Reseden,
Die letzten roten Aestern trag' herbei,
Und lass uns wieder von der Liebe reden,
Wie einst im Mai.
Gib mir die Hand, dass ich sie heimlich drücke,
Und wenn man's sieht, mir ist es einerlei;
Gib mir nur einen deiner süßen Blicke,
Wie einst im Mai.
Es blüht und duftet heut auf jedem Grabe,
Ein Tag im Jahr ist ja den Toten frei,
Komm an mein Herz dass ich dich wieder habe,
Wie einst im Mai.

II. Heimliche Aufforderung (John Henry Mackai)

Auf, hebe die funkelnde Schale
Empor zum Mund,
Und trinke beim Freudenmahle
Dein Herz gesund.
Und wenn du sie hebst,
So winke mir heimlich zu;
Dann lächle ich und dann
Trinke ich still wie du...
Und still gleich mir
Betrachte um uns das Heer
Der trunkenen Zecher,
Verachte sie nicht zu sehr.
Nein, hebe die blinkende Schale
Gefüllt mit Wein,
Und lass beim lärmenden Mahle
Sie glücklich sein.
Doch hast du das Mahl genossen,
Den Drust gestillt,
Dann verlasse der lauten Genossen
Fest freudiges Bild,
Und wandle hinaus in den Garten
Zum Rosenstrauch;
Dort will ich dich dann erwarten
Nach altem Brauch,
Und will an die Brust dir sinken,
Eh' du's gehofft.
Und deine Küsse trinken,
Wie ehmal oft,
Und flechten in deine Haare
Der Rose Pracht;
O komm, du wunderbare,
Er sehnte Nacht!

III. Traum durch die Dämmerung (Otto Julius Bierbaum)

Weite Wiesen im Dämmergrau,
Die Sonne Verglomm, die Sterne ziehn,
Nun geh' ich hin zu der schönsten Frau,
Weit über Wiesen im Dämmergrau,
Tief in den Busch von Jasmin.
Durch Dämmergrau in der Liebe Land,
Ich gehe nicht schnell, ich eile nicht;
Mich zieht ein welches, samtenes Band
Durch Dämmergrau in der Liebe Land,
In ein blaues, mildes Licht.

IV. Wiegenlied (Richard Dehmel)

Träume, träume, du mein süßes Leben,
Von dem Himmel, der die Blumen bringt.
Bluten schimmern da, die beben
Von dem Lied, das deine Mutter singt.

Träume, träume, Knospe meine Sorgen,
Von dem Tage, da die Blume spross;
Von dem hellen Blütenmorgen,
Da dein Seelchen sich der Welt erschloss.

Träume, träume, Blüte meiner Liebe,
Von der stillen, von der heiligen Nacht,
Da die Blume seiner Liebe
Diese Welt zum Himmel mir gemacht.

V. Ich trage Meine Minne (Karl Henckel)

Ich trage meine Minne
Vor Wonne stumm,
Im Herzen und im Sinne
Mit mir herum.
Ja, das ich dich gefunden,
Du liebes Kind,
Das freut mich alle Tage,
Die mir beschieden sind.
Und ob auch der Himmel trübe,
Kohl schwarz die Nacht;
Heil leuchtet meiner Liebe
Gold sonnige Pracht.
Und lügt auch die Welt in Sünden,
So tut mir's weh,
Die arge muss erblinden
Von deiner Unschuld Schnee.

VI. Cécille (Heinrich Hart)

Wenn du es wüsstest, was träumen heisst
Von brennenden Küssen, von Wandern
Und Ruhen mit der Geliebten,
Aug' in Auge und kosend und plaudernd.
Wenn du es wüsstest, du neigtest dein Herz!
Wenn du es wüsstest, was bangen heisst
In einsamen Nächten umschauert vom Sturm,
Da niemand tröstet milden Mundes die kampfmüde Seele.
Wenn du es wüsstest, du kämest zu mir.
Wenn du es wüsstest, was leben heisst,
Umhaucht von der Gottheit weltschaffenden Atem,
Zu schweben empor, lichtgetragen
zu seligen Höh'n, Wenn du es wüsstest,
du lebstest mit mir.

1. 「万葉節」(ヘルマン・フォン・ギルム)

香りの良い木犀草を机の上に飾りましょう
名残りの紅いひな菊をもってきて下さい
そしてまた二人で愛を語りましょう
かつての五月の日のように
手をさしのべて、私はその手をそっと握って
まわりの目なんてどうでもいいのです。
やさしい眼差しをなげかけて下さい
かつての五月の日のように
今日、どの墓にも花は咲き香りが漂っている
一年でたった一日だけ、亡き人の魂が放たれる日
ああ、私の胸にもう一度かえってきて下さい！
かつての五月の日のように

2. 「ひそやかなる誘い」(ジョン・ヘンリー・マッケイ)

高くあげよ、溢れんばかりの杯を
おまえの口もとに
飲めよ、この喜びの宴に
心ゆくまで
そして杯をあげる時は
こっそり私にウィンクしておくれ
そしたら私もほほえみ返し
おまえに合わせ静かに飲もう...
また私と同じようにだまって
大勢の仲間をよく見てごらん
あの酔っぱらった飲んだくれの連中を
でも見下げてはいけ
そつだ！もう一度乾杯だ
ワインがこぼれそうになった杯で
あの連中はにぎやかなパーティを楽しんでいるから
放っておけばいいさ
でも腸気に食べ終わって
美酒に飽きてしまったら
あの明るい連中のお祭り騒ぎをはなれて
庭に出ておいでよ
バラの残みの方へ
そこで私はおまえを待とう
皆が昔からそうしてきたように
そしておまえの胸にもたれがかり
君の望みどおりに
口づけを飲んでしまおう
かつての日々を思い出しながら、そして
みごとなバラのような
髪に指をからませる...
おお、早く来たれ
待ち望む夜よ！

3. 「たそがれの夢」(オットー・ユリウス・ビーアバウム)

夕暮れの広い野原
陽は沈み、空に星が輝きはじめる
私は最愛の君のもとへ行く
たそがれの広い野原の向こう、
ジャスミンの深い茂みの奥へ。
夕暮れの宴に満ちた地を
私は急がずに、ゆつくり歩いている。
やわらかなビロードの「リボン」に惹かれて
うす明かりの宴に満ちた地を
ほのかな藍色の中へ。

4. 「子守歌」(リヒャルト・デーメル)

夢をごらんよ、夢をごらん、私のいとしい命よ
私たちに花をもたらし空のこゝろを
そこで花びらは小さく揺れている
おまえのお母さんの歌う歌に

夢をごらんよ、夢をごらん、私の心にかかる芽よ
白ごに花が芽ばえるのを
そしておまえの小さな心がこの世に開いた
明るい花咲く朝のことを

夢をごらんよ、夢をごらん、花咲く私のいとしい子よ
静かで清らかな夜のこゝろを
あの人の愛の花が、私のために
この世を天国につくり変えてくれた夜のこゝろを

5. 「愛を抱きて」(カール・ヘンケル)

私は胸に愛を抱く
うれしさのあまりものも言わずに
心の中に気持ちの中に
私はどこへ行くかと愛を抱いている
そつ、私は君と出逢ったのだ
愛する君！
来る日も来る日も、なんとうれしいことだろう

そしてたとえ空はくもり
夜は暗くとも
私の愛の金色の光は
あざやかに照り、輝く
罪の世は偽り
私を悲しませようとも
悪は盲目になるにちがいない
おまえの雪のような純潔さの前に

6. 「ツェツィーリエ」(ハインリヒ・ハート)

もしも君が夢見ることを知っているのなら...
燃えるような口づけを、恋人と一緒に歩き
ともにくつろぐことを
互いに眼を見つめ愛を語り、言葉を交わす事を
もしも君が知っているのなら、一緒になれるだろう！
もしも君がおそれるものに出会ったのなら...
嵐吹き荒れるひとりの夜、人生の荒波に
傷ついた心が暖かい言葉によっても慰められない時
もしも君がそれに襲われたら、僕の所へやって来るだろう。
もしも君が生きていることを知っているのなら...
神の無限の恵につつまれて、軽く舞い上がり
幸せに満ちた所へ持ち上げられるのだ
もしも君がそれを知っているのなら、
僕と一緒に暮らそうものを！

バリトン独唱と男声合唱のための **レクイエム**

意味深い年の暮のレクイエム

三木 稔

福永先生の指揮で同志社グリーンが「レクイエム」を演奏して下さい。反戦平和を万人が望むべき特別な年ですから、意味深く思います。

この曲を22年前に初演した東京リーダーフェルのアンケート調査では、圧倒的多数の団員たちが最も印象に残った曲として挙げています。私自身にとっても自分の初期に作曲した中で最も心に残っている曲です。

今は、2時間も3時間もかかるオペラや、膨大な編成の管弦楽曲を書くことがあたり前になってしまいましたが、当時名もない青年作曲家であった私には、このような長い曲が上演され（初演はオケ伴）、第五楽章では皆涙しつつ歌ってくれたという事実は大きなはげみでした。混声版も出版されましたが、男声独得の情感も今後ずっと生かされつづけるでしょう。ピアノ1台の伴奏の男声合唱での上演はまだ聞いていませんので、仕事の都合がつけば聞きに行きたいなあ、と思っています。

三木稔作曲『レクイエム』について

福永 陽一郎

この数年間、自分の新作オペラの初演が、ヨーロッパやアメリカで先行し、日本での発表が後になるというほど、オペラの作曲家として海外で高く評価されている三木稔（敬称略）には、その作曲活動の初期に、自分自身も団員として合唱団に籍を置き、演奏にも携わるなど、合唱音楽に強い関心を持ち、合唱のための作品を次々に書きおろすといった活発な活動をしていた。それらの初期合唱曲のうち、もっとも規模が大きくて作品としても高く評価されているのが『レクイエム』という題名を持つ合唱曲で、オーケストラの伴奏による公演が正規の演奏様式である。初演は1963年に男声合唱とオーケストラによって為されたが、ピアノと電子オルガンと打楽器だけで演奏できる男声合唱版の楽譜が出版されていたこともあって、ピアノ2台で伴奏するという演奏形態になっていた。1976年に、この曲を得意のレパートリーとする指揮者・小林研一郎の要請を機に、混声合唱の版が成立し、その際、オーケストラに近い演奏効果を狙ったピアノ1台の伴奏楽譜も整備されて、1984年に作曲者が承認した正規の楽譜が出版された。作曲の最初の着想は混声合唱曲であったともいうし、かねてから、オリジナルのオーケストラか、そうでなければピアノ一台での伴奏が良いという考えであった私（福永）は、この楽譜の成立によって、混声・男声のどちらでも演奏するチャンスが増大することを歓迎している。

三木稔の『レクイエム』は、この明瞭な題名にも関わらず、ローマ・カトリックの「鎮魂ミサ曲」と、一切の関係がない。カトリックの典礼文は、部分の引用というかたちでさえ一行も採られていない。この曲で扱われている歌詞は、作曲者が古本屋の店頭で偶然に見つけたという戦争中（1944年）の出版物『南方原住民の歌謡』に収録されていたもので、ポリネシア・マンガヤ島に伝わる『ヴェラを悼む葬送の歌』という題を持ち、日本語訳は浜野修という人だが、オリジナルから直接の訳ではなく、1936年にウィーンで出版された “Dichtungen der Natur-Voelker” という本に、Echart von Sydow という人がドイツ語に訳したというかたちで載っていたものの重訳であり、さらに三木那名子（作曲者夫人？）の加筆修正の手が入っているのだそうだから、いっそ、三木稔作詞と言うほうがスッキリするのではないか。というのも、この『死者の魂を鎮め送る歌』は、詩の原型や元の意味を越えて、作曲者の言う「現代の恐るべき数々の殺戮によって、天寿を全うせずに昇天した魂への広い意味での鎮魂歌」という思想と思い入れは、強く彫り込まれた輪郭の濃い音楽として、ここにしっかりと実存しているし、言葉の個々の意味など、すっきり吹き飛ばされているからである。

ストーリーとしては、肉体が死んで滅びたあとも、『南東の風』が吹いて『彼岸』へ向かう舟が出るまで、幾らかの時間、魂としてまだ身近に居る死者と、それを船着き場まで送って行く生者との間で交わされる名残なき会話という形をとって、別離という空間の事実を時間の中に何とか引き止めておきたい原始的な願望が、素朴に痛烈にうたい続けられる。文明人社会が豪華華麗な典礼儀式の中に見失ってしまった『別れの悲しみ』であるが、自然現象をそのまま膚で感じ、うぬぼれた解釈など加えずに、僅かな想像力によって知り得る範囲で、静かに深く心の奥にまで届いてくる痛くて辛い現実を受け止め、葬送＝『死者を送って別れる』ことの正しい意味を知る。ここで三木稔が、詩と言葉を超越して到達して見せた、音楽によるメッセージの強烈さに感動しない者はいないだろう。

彼岸への対話

〈レクイエム歌詞として〉

第1楽章

聴こえるか友よ 海鳴りの声が
あの松の林の蔭の
大岩の上で飛び散る波の音だ
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

さあ行け あそこの扁平な岩まで
あそこで順風の来るのを待とう
おまえを海の向うへ渡す風を

あの深く うす暗い断崖
不安定な石の上か
お、わたしの魂を休ませてくれ

聴こえるか友よ 海の音楽が
お前は偉の悪い旅人
きょうから住む国と決ったあそこは
大口あいた墓穴が通路だ
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

第2楽章

わたしの道は
海に近い真黒な岩壁の上を走っている
足場もない切りたった岩の上を
この足弱な霊達を連れて行くのか

おまえの道は
海に近い真黒な岩壁の上を走っている
足場もない切りたった岩の上を
お、ここまで追い込んだものは何だ
霊たちよ 待とう

南東の風
それが わたしたちを吹いて
この広い海を渡してくれるのだ
あちこちと彷徨うのだ

潮に洗われた岩の上も

軽々と跳び歩こう
でこぼこな岩で足を痛め
幽暗な気に圧されて崩折れ
そしてなつかしむ

おや泣虫ぞろいの御一同
その指揮官が
お、友 お前か

時折かかる湿っぽい霧のペールが
たたずむ山々を視野からかくし
時には潮の飛沫が吹きつける
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

第3楽章

急げ
急げや
船出の場所へ
気をつけろ 足をふみはずすな

返れ
引返せ
船出はすまい
岩も叫ぶ 木も叫ぶ
海の風さえ取り乱している

急げ 急げや
船出の場所へ急げ

岩道では誰も彼も足を痛めたらしい
棕櫚の林の間を縫って
あれが淋しい彼岸への道
どうやら道の半分は来た
日が落ちるか
暫く待とう

見よ、東を
見よ、西を
見よ、太陽はすでに地の果にかげり
再び道を返さずすべもない
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

第4楽章

お、友よ その足は
つる草に絡まれた
枝の繁りも行く手をさえぎり
花の香りも虫の声も
その胸を乱す

友よ
魂の国へ行く用意はいいか
いまこそ泡だちたぎる海原こえて
現身のない魂が好むという
棕櫚の木の暗くうち続く間を縫って
波巻く濃藍の海原越えて
友よ 用意はいいか

蟋蟀も泣いてお前の通る
磯の叢林のこみちを案内する
死者の魂のさ迷う道だ
お、友よ、翻える後髪を洗え

第5楽章

嵐をさける にげ場はどこだ
鎮まれ 鎮まれ
気を静めて そっと吹いてくれ
傷ついた魂がひと眠りする間

お、足許の大地が二つに割れた
海が二つに割れた
岩が割れ 木も割れた

ぽっかりあいた 大きな割れめは
手招きして わたしたちを待っている

南東の風

では さようなら
甘い香りの花の芽で飾り
佳い匂いのする繁葉も添えた
友に安らかな眠りを賜われ
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

同志社グリークラブ技術顧問 福永陽一郎

1926年神戸に生まれる。東京音楽学校（現・芸大）本科ピアノ科出身。井口基成、豊増昇氏にピアノを師事。在学中より東宝交響楽団（現・東響）で近衛秀麿氏の助手をつとめ、同氏に作曲法、指揮法、管弦楽法を師事。M・グリット氏にオペラ指揮法を師事。

1951年藤原歌劇団に入団、同団常任指揮者として、'65年まで活躍。その間同団第3次渡米公演に同行。また、'59・'61・'63・'71年のNHKイタリア・オペラ来日公演に際しては、日本側代表指揮者として参加、副指揮・合唱指揮をつとめる。歌劇指揮者として広くその名を知られる一方、合唱界においても、'52年畑中良輔氏と共に東京コリアーズを設立し日本最高のプロの合唱団に育て、またアマチュアコーラスを30年にわたり積極的に指導。又、評論活動も、多くの人々から注目され著書に「演奏の時代」（紀伊国屋書店）、「正・続・私のレコード棚から」（音楽之友社）などがある。合唱用の編曲は千数百曲に及ぶ。同志社グリー、早稲田グリー、法政アカデミー他、多くの合唱団を指揮する一方、藤沢市民交響楽団の常任指揮者をつとめ、今年の11月の藤沢市民オペラ「アイダ」の上演は多大な反響を呼んだ。'83年同志社グリークラブヨーロッパ演奏旅行に同行。



私にとって、1985年というのは・・・

生きている証しの「レクイエム」

今年1985年です。日本が戦争をやめたのが1945年でしたから、あれから40年経ったということです。こういうことを言い出すと、また『戦争と青春』という題名の、もうひとつの“例の戦中派の話”が始まるのか、とうんざりする向きもあるかも知れません。今回も、そのとおり戦争に関わる話で、それもかなりプライベートな身勝手な言い分ですから、いい加減にしろ、と叱責されそうでもあります。まあ、聞いてください。

かつて『人生20年』という言葉がありました。いまは死語ですが、言うまでもなく、むかしからの『人生50年』という言い習わしをもじって、日本のありとあらゆる男子が、20歳を前にして軍隊＝戦争に狩り出され、いったん軍隊に編入されるとなると、いつ、戦死したという知らせが来ても当たり前、こんなに若くて死ぬなんて、と不平を口にするなどともない時代にたいする、悲しい怒りを象徴する一語として『人生20年』というモットーが生み出されたのです。私自身、昭和20年、数え歳で言ってちょうど20歳の、『大日本帝国』の最後の徴兵検査に合格（！）。入隊直前のリサイタルに『告別演奏会』と名付けたのは、当然、すぐに死ぬ覚悟で、これが私の一生の最後のピアノ・リサイタルだと思いこんでいたからでした。（事実、同じ日の召集で直ちに沖縄方面に配属されて戦死した同級生もいたのです）——それが、どこで運の道が別れたのか、私は生きて帰ってきましたが、中学時代の音楽仲間、まるで約束でもしたかのように、誰も彼も揃って、戦地からもどって来なかったのです。

いまから思い返しても口惜しいのは、あのとき失われた仲間の中に、並外れて優れた素質に恵まれたものがいたことです。戦争があって、死んだりして、消えてしまった彼等の才能は、生きていたら、きっと必ず大きく日本の音楽界のため直接貢献したに違いないスゴい奴もいました。『お前たちの分も生きてやるぞ！』と、彼等の霊前に誓ってから今日まで40年。三倍の年月を生かして貰った私が、果たして胸を張って『どうだ、やったぞ！』と言えるかどうか。それすら心許ない“残された者”が、せめてものアイデンティフィケーションのために、誠心誠意、『鎮魂の調べ』をうたい上げたいと願っての、今日のステージなのです。



学生指揮者 神谷伸行



1962年名古屋生まれ。音楽科の女子大生と同じような習い事をして育ち、その後平凡に音楽の基礎を固める。1982年同志社大学文学部英文科に入学。「合唱は関西」という言葉を信じグリーに入部するが、関西人の野暮ったさやセンスのなさに失望、また、東京の合唱団のむなしきザッぽさにも落胆しているらしい、NAGOYA人である。今年1月、第54代学生指揮者に就任。41月の関西六連では“愛の詩集”を華麗に指揮、その指揮ぶりは六連合唱指揮者の小松一彦氏も絶賛したという。音楽に対する誠実な態度と深い理解は、部員の絶大な信頼を得ている。今宵のステージ、彼の表現する“愛”が皆さんに伝わるかどうか、乞う御期待!!

六連演奏会が終わると、大方の人が関西と同志社が良かった、などと言う。細かい点は除くと一般的に同・関は関西合唱界の双壁といわれてきた。しかし演奏の記録を客観的に比べてみたら、たぶん誰しも関学の方が「うまい、耳心地が良い」と言うだろう。では同志社のうまさとは何か。

去年の12月に学指揮になって先ず考えたことは、音程・リズム・ハーモニー等アンサンブルのごく基礎的な部分の力を定着させることであった。全然ハモってもないのに満足げな顔をして歌っているのを見ると、「よくこういう伝統で80年も続いたもんだ」とあきれたものである。それが福永先生に「昔の同志社では考えられなかった」と言われる程ピッチも安定し、ハーモニーも決まるようになったのが5月頃で、四連では期待どおり見事な演奏ができた。しかしその福永先生に「客観的には立派だが、聴衆に伝えるべきメッセージを部員一人一人が持っていなかったのではないかと」言われ、やはり耳心地の快さのみでは感動は得られないことに気がついた。……同志社のうまさはこれだ、とはっきりは言えないが、人数が少ないだけに一人一人が本気になって音楽しようとして決意した時、ものすごい力が出る。底力を持って、孤独な舞台の上で1つになろうとする。そんなにプライドがある訳でもなく、ごく庶民的で、少々荒けずりかもしれない。しかしその時は、本当に素晴らしい、心の琴線にふれるような歌が歌える合唱団であろうと信じている。ずいぶん勝手な言葉を並べたが、今日の演奏会を少しでもその証明になるようなものにしたい、と願っている。

同志社グリークラブ指揮者 富岡 健



大阪に生れる。同志社大学法学部卒業後、1974年より3年間ウェン州立大学音楽学部指揮専攻科に学ぶ。その間、同校のStudent Assistantとして合唱、アンサンブルの授業を担当するほか、デトロイト・シンフォニー・ユース・オーケストラの指揮者団の一員として研鑽を積む。

帰国後、各地のオーケストラ、合唱団の指揮にあたる。中でもハイドン、モーツァルトの宗教音楽をオーケストラとともに積極的に取り上げている。またオペラ分野にも意欲をみせ、84年から関西二期会の副指揮者として森正、小泉和裕、松尾葉子、手塚幸紀各氏のアシスタントを勤めるほか、喜歌劇協会、滋賀オペラ協会にも参画している。

指揮法を福永陽一郎、若杉弘、H・ラングスフォードの各氏に師事。現在、大阪芸術大学講師として指揮法、合唱を担当。

今日の定期演奏会では、J.Strohbach と J.H.E.Koch というまだ日本で充分に紹介されていない現代ドイツの作曲家の作品を取り上げることになりました。3作品とも本邦初演ということです。アレンジものの初演は何度か経験させていただいているものの、真の初演は私にとってこれが初めてのことで、今日の演奏が、この作品にとって日本にのりだす第一歩なのです。少なからずの興奮と緊張を覚えます。

ヴォーカル・スコアは福永先生からご紹介いただきました。先生の熱心な、そしてこまめな楽譜収集には全く頭が下がります。金管アンサンブルは、トランペットの第一人者でいらっしゃる森下治郎さんが主宰なさるアンサンブルが協力して下さることになりました。スコアはブライトコップの貸譜だったのですが、これはヤマハの上田さんに、そして作曲家についての資料は京都ドイツ文化センターの岩手さんにそれぞれお力添えいただきました。また訳詩は、同志社大学文学部教授K.シュベネマン先生と次期学生指揮者の中村君の御尽力によるものです。

たくさんの方に支えられての初演、グリークラブのみならず、期待にそうべく演奏をしたいと願っています。

ヴォイストレーナー 大久保昭男



昭和28年、東京芸術大学声楽科を卒業。矢田部勁吉氏に師事された。近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕作指揮、オペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」などにも出演された。昭和34年にはドイツ・リート、日本歌曲による第1回リサイタルを開かれた。

現在、昭和音楽短期大学教授、東京芸術大学講師。また、慶応ワグネル、上智、立教、明治、関学、同志社の各グリークラブ、早稲田コール・フリューゲル、法政アカデミー等、大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍されている。

第81回定期演奏会にあたり、心より御祝い申し上げます。

私はグリーを20数年、見てきましたが、やはり定期演奏会という色々なことを思い出します。

短い4年間の大学生活には必然的にグリーのメンバーの入れ替わりがある訳ですが、今年も多く1回生が入部しました。その1回生達を夏合宿では個人個人、特別レッスンしました。その時に比べ11月のレッスンのときには、だんだん声もそろってきて、心なしか、顔もグリーの顔になってきましたね。そして今日のステージでは、もう何年もグリーで歌っているような顔をして堂々と歌っていることでしょう。

そして何回も演奏会を経験し、立派な歌手となった頃には卒業という大きな転機がやってきます。しかし4年間グリーで歌い学んだことは、大きな貴い力となって社会に出てからも役立っていくことでしょう。

本日のステージで歌う一人一人が、毎日積み重ねてきたことを発揮し、美しく、そしてすばらしい音楽を作り出すことを願っております。

ピアニスト 久邇之宜



1972年国立音楽大学ピアノ科卒業。クロイツァー豊子、近藤孝子氏に師事。小林道夫氏に伴奏法を師事。二期会、東京室内歌劇団、NHK他各方面で伴奏者として活躍され、1981年6月、2年間のウィーン国立大学への留学を終え帰国された。今や歌曲のリサイタルには欠かすことの出来ないピアニストであり、また、福永陽一郎先生のよきパートナーとしても大学グリー等のピアノを受けもち、先生の持つあたたかな、そして感受性豊かな音楽をおしげもなく発揮されている。その美しい音色と力強いピアノタッチはレコード録音、NHK・FM放送等を通じて高く評価されている。

第81回定期演奏会おめでとうございます。昨年に引き続き続いて名門たる同志社グリークラブの演奏会に出演できますことをたいへん嬉しく思い、また少しでもお役にたてますよう頑張りたいと思います。

さて今日の演奏曲目である「レクイエム」は福永先生による名演奏が東芝レコードに刻まれています。それによっても判るように、この曲は元来オーケストラの伴奏によって演奏されるべき曲目だと思うのですが、これをたった1台のピアノによって創り上げようというのですから大変な仕事です。もっとも、これに先立ち、福永先生より「これは大変な曲なのだから、いかにも大変な難曲です、というように弾いてくればいいんだよ」という暖かい(?)お言葉を頂戴したので、よしそれならピアノでなければできないような曲に、あえて言うなら新しい名曲に挑戦するつもりで弾いてやろうと開き直すことにしました。ダイナミックなパワーを持つ同志社グリーにどこまで太刀打ちできるか判りませんが、いかが相成りますか、我ながら楽しみです。

独唱者 山本健二



昭和25年福岡高校在学中、西日本高等学校独唱コンクール第2位。昭和31年早稲田大学第一法学部卒業。在学中、グリークラブの学生指揮者として活躍。昭和41年第35回NHK毎日音楽コンクール声楽部門入選。昭和55年第3回波の会日本歌曲コンクール歌唱部門第1位及び萩野綾子賞受賞。ニコラ・ルッチ、ロドルフォ・ルッチ、磯部俊、岡村喬生、中山悌一の各氏に師事。

共立女子大学合唱団、フレーベル少年合唱団、むさしの合唱団、稲門グリークラブ各指揮者。日本合唱指揮者協会会員。新波の会会員。

ボートピープルで注目をあびたマレーシアの東海岸は昼の海あくまで青く星ふる夜空は、その輝きに海の底に眠る幾万の兵士の魂のさざめきを聞く思いがありました。歴史の流れに弄ばれた兵士達の無念さを思うとき、私は目の前で水と戯れる人々を唯じっと見るだけであったことを思い出します。

今、戦後40年の節目に同志社グリークラブと共にレクイエムを歌うことは同志社大学の戦没された諸先輩を含め無情な戦いの犠牲となった人々への鎮魂の祈りであり、また共に歌う若者達に2度とこのようなことが起こらぬことを願う祈りでありましょう。

音楽に初めて触れたのが高校での男声合唱である私にとりまして栄光ある伝統に輝く同志社グリークラブとの共演は私自身の音楽のふるさとで歌うような懐かしさがあり、しかも指揮は30数年前の福岡時代より尊敬する福永先生であれば必ずや良い音楽を引き出して貰えるものと今宵至福の感があります。

今日の演奏が聞く方々の心に残るものとなりますようベストを尽くすと共に同志社グリークラブの益々の発展を祈念するものであります。

ピアニスト 長田育忠



昭和58年同志社大学法学部卒業。学生時代から合唱、独唱の伴奏、教会でのオルガニスト等をつとめる。ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、N・ジョルジ(リスト音楽院教授)諸氏に、和声学を島田和昭氏に師事。現在、大学や一般の合唱団で伴奏者として活躍中。また、合唱用の編曲も多く手がけている。同志社グリークラブとは、本年度の演奏旅行をはじめ、関西六連でも伴奏をお願いし、部員とも息もぴったりである。

今年1年を振り返ってみると、同志社グリークラブとは、春の同関の合同練習、夏の演奏旅行、秋の関西六連と、1年を通じておつき合いの多い年でした。また、どういう訳か日常でも、いろいろな所でグリーメンと顔を合わせることも多い年だったようです。その1年のしめくりでもある定期演奏会に、昨年の創立80周年記念に続いて今年もこうして参加させていただけることに、心から感謝いたします。

今宵、伴奏をさせていただくR・シュトラウスの歌曲集「愛の詩集」は、私が初めて同志社グリークラブのステージを聴きに行った時に演奏された曲で、私にとってはとても思い出深い曲です。(第25回東西四連で、福永陽一郎先生の指揮、久邇之宜先生の伴奏でした。)当時まだ高校生だった私は、生で聴く大学生の合唱の響きに圧倒されたことを覚えています。

限りなく美しい詩情あふれる旋律に、ある時は幻想的に、またある時は華麗に、情熱的に、多様な色彩的变化を見せる伴奏をともなったこの名曲を、同志社グリークラブの皆さんと共に演奏できることは、私にとってこの上ない喜びです。とても音楽性豊かな学生指揮者神谷伸行君の指揮のもとで、夏の演奏旅行から一緒に作り上げてきたR・シュトラウスの名曲、今宵は一層味わい深い「愛の詩集」となることを願って、ステージに立ちたいと思っています。

松山 義則

同志社総長

今宵、同志社グリークラブの第81回定期演奏会が開催されますにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。音楽を愛される皆さまが、かくも多勢お集りいただき、わがグリーンメンの合唱に親しく耳を傾けてくださることを心からうれしく存じます。人は歓喜のとき、また悲哀のとき、はたまた祈りにあるとき、その感情が高まってまいりますと、共感する仲間と歓びの気持、悲しみの気持、あるいは神の愛を讃える心を分かち合い、声をあげてたしかめ合うことが自然のようであります。合唱音楽のみならず、これこそ人間性にあふれた行為と言えましょう。現代における合唱音楽は、美しい旋律と豊かな表現によって、人間の感情を心ゆくまで昇華し、知らずに聴くものにも大きな共感を呼び起こさせます。わがグリーンメンもまた、こよなく音楽を愛し、合唱への情熱に燃え、すばらしいハーモニーを醸し出すため、不断の精進を積んでまいりました。きっと皆さまにご満足いただける演奏を披露してくれるものと思えます。どうか皆さまには、このひとときを楽しんでいただき、今後ともあたたかいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

この文章を書いているこの2、3日、ジュネーブで米ソ二大国の首脳が会談を行っている。世界中の人々がかたずを呑んで注目している。両陣営の、それぞれ核兵器を盾として築こうとする「世界の平和」が、どういう経過を辿るか。彼らは、核兵器廃絶による平和という人類共通の願いに背を向けて、ここまで危機を増大させて来た。国や体制の代表としてよりも、今、地球上に住まう一人の人間として責任ある決断をして貰わねばならぬ。こういう政治的軍事的危機の歴史的局面で、我々の音楽は我々に何を与えてくれるのだろうか。音楽は美的世界の人間としての体得と表現の文化的営為である。それは高度の練磨と厳しい技術の習得を必要とするとは言うまでもない。けれども同時に、人間としての尊厳と他者への愛をその根底に持つのでなければ、それは文化の名には値しないであろうし、逆にそういうポイントを明確に据えた音楽こそが、この策略や戦術や独善や倨傲のはびこる政治的世界で、真に人間を創り人間の心を動かし平和を希求する文化を形造る原動力となることであろう。同志社グリークラブの音楽の目指すところは、81年の歴史を通してそこにあったし、今後もそうであることを願っている。今宵の諸君の演奏に期待をこめて。

日下部 吉彦

関西合唱連盟理事長
音楽評論家

同志社は、いよいよ南山城田辺への移転を始めます。いま注目を集めている京阪奈学研都市建設の尖兵となるわけです。そして同志社グリークラブは、ひと足早く、定期演奏会を、大阪のザ・シンフォニーホールで開くことを定着させました。私は、こういった進取の気風や、積極的な姿勢が大好きです。京都という町は、私にとって、ふるさとでもあり、とても好きな町ですが、そこに、とじこもってはいは、何にもなりません。いまや、京都も大阪も神戸も、生活圏としては、ひとつです。学問や芸術の活動の場は、自由に広がっています。諸君のやっていることが、価値あるものであり、自信が持てるものであるなら、どんどん、外へ進出して下さい。そのことがまた、諸君の芸術を、ふとらせることでしょう。福永先生、おからだは如何ですか。ご無理をおしてのご指導、ありがとうございます。若き指揮者富岡君、結婚によって、音楽が、一段と豊かになったことでしょう。さらに、ピアノの久邇先生や、声楽家の山本健二先生まで、応援にかけつけて下さって、本当に感謝しています。学生指揮者の神谷君も、頑張ってください。年末のシンフォニーホールの、ひとつの呼びものともなりつつある同志社グリーの名演が、今年も成功しますように、OBのひとりとしても、心から祈っています。

清水脩先生の名作「月光とピエロ」が作曲されたのは昭和20年代前半、以後40年間の演奏回数はとても数えきれないものでしょう。ところが演奏の内容は千変万化、困ったことに誰かの演奏のコピーとしか思えないものかいつぱいで、私達初期に歌った感激を忘れ得ないオールドを慨嘆させること屢々です。今年はどういう訳か空前のピエロブームだそうなんです。そんな今、福永陽一郎先生によってこれぞ正統派の「ピエロ」が演奏されるという。本年掉尾を飾るにふさわしい決定版のお披露めになることでしょう。私事で恐縮ですが、この秋、京産大グリーがR・シュトラウスを歌って全日本コンクール5年連続の金賞を頂きました。何年前かに福永先生に聞かせていただいたR・シュトラウスの官能美に魅せられたおかげだと感謝しています。そのR・シュトラウスの歌曲が福永先生によるアレンジで今日聞かせて頂けるそうです。富岡先生のLOB DER MUSIK ははじめて耳にするもの、加えて三木稔先生のレクイエム、と来ると、まさに男声合唱曲の豪華けんらんライブ＝ライブラリー登場ということになりますね。京都で開いてくれないのが残念ですが、京都市内にはない素晴らしいホールですてきな演奏がくりひろげられますよう心からお祈りします。

遠藤 彰

同志社グリークラブ顧問

吉村 信良

京都府合唱連盟理事長
指揮者

松本 寛二

同志社グリークラブOB会会長

真っ黒いチラシといっしょに、原稿依頼の速達がとどいた。毎年12月だから、もうそろそろくるだろう、とは思っていたのだが、さて書かなければとなると気が重くなるものだ。しかし、同封されていた真っ黒なチラシに目を通した瞬間、これはすごい、すばらしいステージじゃないか、やるなー、という思いが先に走って思わずペンをとってしまった。まずわれわれの歌えるのといったら、最初の「月光とピエロ」くらい、あとはぜんぜん。そして、こんなプログラムで定期をもてる同志社グリークラブの成長ぶりをまざまざと見せつけられたような気がしてうれしくなりました。たまたま、今年もヨーロッパに旅立つ日と重って聞けないのが残念だが、総勢80余名という充実したメンバーで歌うこのプログラムなら、各ステージとも、心に残る演奏会となって聴衆を魅了することはまちがいない。そして、明春には、その余勢を駆って再度ヨーロッパに挑戦するんだという。おそらくこの定期のステージの中のいくつかがレパートリーに加えられることだろうが、この定期演奏会の成功と同時に、スイス、東西ドイツなどヨーロッパ各地での演奏会でも、きっと同志社グリークラブの真価を最高に発揮してくれるものと信じている。何はともあれ、81回目を数えるこの定期演奏会の成功を祈りたい。

関西学院グリークラブ

同志社グリークラブ第81回定期演奏会のご開催をグリーンメン一同心よりお慶び申し上げます。東西四連、関西六連での良きライバルとしてお互い熱い視線を交わしあってきたと思います。今年は初めて同関ソフトボール大会、飲み会を行いました。このことは両団の歴史におきまして画期的と言えると思います。ソフトボールでは全敗してしまいましたが、両団の友情は更に深まったと確信します。ステージでの貴団は、我団にはない熱き血潮の如くエネルギッシュな演奏を聞かせてくださり、私共に敬意の念とまたライバル意識に火をつけてくださるのです。本日のステージでは、この一年間の努力が集大成されました素晴らしい演奏が披露されることと思います。最後になりましたが、今宵の演奏会のご成功と貴団のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

早稲田大学グリークラブ

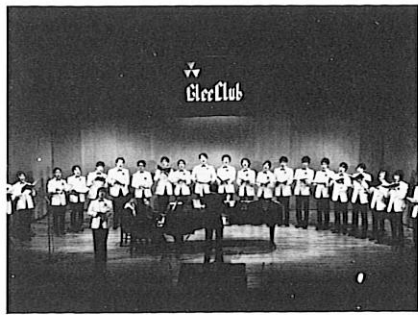
第81回定期演奏会のご開催を、部員一同心よりお祝い申し上げます。東京と京都と遠く離れてはいても、貴団のご活躍は常に我々グリーンメンの注目の的であり、また大いにライバル心を刺激されるものであります。我々が貴団の演奏に直接接することのできる数少ない機会である東西四連では、今年も期待に違わぬ素晴らしい名演を聴かせていただき、改めて貴団の高い実力を認識し、同時に我々も負けではられないという気持ちにさせられました。しかし、そうした現在の位置に満足することなく、更に自らの音楽を追求し、高めていこうと努力を続けられている貴団の姿勢には、同じ合唱を志す者として深い共感を抱いております。今後とも、良き友、良きライバルとしてお互いに切磋琢磨してゆこうではありませんか。最後になりましたが、今宵の演奏会のご成功と、貴団の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

慶應義塾ワグネルソサイエティー男声合唱団

同志社グリークラブ第81回定期演奏会のご開催おめでとうございます。私共部員一同心よりお慶び申し上げます。先日開催いたしました私共の大阪公演におきましては、たいへんご尽力をいただきありがとうございます。おかげさまで無事終了することができました。部員一同、改めて深くお礼申し上げます。毎年、皆様とは東西四連で一緒にするものの、京都と東京という離れた地にあるため、なかなかお会いすることができません。この度の大阪公演で皆様と交流を深められたのは、私共にとりまして大きな収穫でした。しかしたとえ離れた地であろうとも、皆様の活動は常に私共の注目するところであり、大きな励みとなっております。今宵の演奏をそろってお聞きすることができないのは残念ですが、遠く東京の地より演奏会のご成功をお祈りしております。来年の東西四連でまたお会いしましょう。

立教大学グリークラブ

同志社グリークラブ第81回定期演奏会のご開催を、部員一同、心よりお祝い申し上げます。貴団とわが団とは、古くから主に交歓演奏会を通して、良き友、また良きライバルとして、お付き合いいただいております。東京、京都という遠距離のために、お会いする機会は多いとは言えませんが、貴団の関西、または演奏旅行地においてのご活躍を耳にする度、常に貴団を意識してきました。本日の定期演奏会のご成功の報も、遠く東京まで届くことでしょう。しかし、そのような名演奏の数々も一朝一夕にはできるものではありません。皆様方の日頃の練習での精進や80余年もの長い伝統の賜なのです。今宵も、重厚でセンス溢れる歌声をホール一杯に響かせてください。最後になりましたが、今宵の演奏会のご成功と、貴団の益々のご発展をお祈り申し上げます。



フェアウェルコンサート



春合宿



京都合唱祭



陽ちゃん先生を囲む会



六連運動会

☆フェアウェルコンサート

グリーにとって一年間の締めくくりであり、4回生にとっては4年間のグリーライフの総決算である、フェアウェルコンサートが、2月16日、同志社学生会館ホールで行なわれました。

☆春合宿&夏合宿

毎年、春合宿を何処で行うかで外政の頭を悩ますものですが、何れともあれ温暖の地である小豆島で、今年の合宿が始まりました。

部員にとって合宿の楽しみといえば、寝る・食べる・そして練習する!の3つであります。しかし、特に食べる面でグリーメンは苦勞をしたものです。なんと、メインディッシュが、がんもどきという事もあり、我々が、腹一杯食べようにも食べず、骨と皮の身になるものが続出し、部員一同は、小豆島から逃げ出すように立ち去ったものであった。

うって返って夏合宿です。例年の野尻湖をやめて、今年は志賀高原で行いました。今回の合宿では、初日から大久保先生をお迎えして発声を見ていただき、定演に向っての第1歩を踏み出しました。気候が良いこともあり練習に対して積極的に部員一同が一丸となるという素晴らしい合宿でありました。

しかし、夏合宿最大の行事である洗礼式を前にし、四回生軍団が、就職活動から少しづつ戻ってくると、部員の緊張もそれにつれて高まり、最終日前夜には、神聖なる洗礼式がおこなわれ行なわれました。それによって1回生は、グリーメンとして認められました。その後の演芸大会では、2回生がこの日の為に練習してきた芸の数々を披露し、部員一同楽しいひと時を過ごしました。

このようにして、帰りは2階建てバスに揺られ、リッチな気分になりつつ盛大のうちに夏合宿は終わりました。(by MOTO)

☆オリエンテーション

このオリエンテーションに明日のグリーを担う新人獲得作戦を繰り広げます。例によってステージそのままのバーテンススタイルに身をつつみ、キャンパスを所せましと徘徊する様は、同志社の名物といえます。新入女子大生は指をさして笑いの種にはしてくれども、決して声などかけてくれません。軟弱な男共はあたかも「やっちゃん」にでも会ったかのごとくに逃げ回ってくれます。それでも我々は、「まあ、まあ、お茶でも……」「メン食お、メン」を連発し、豊富な財力にものを言わせ今年も連夜「東天紅」にて宴会をもち、遅ましい一回生を20数名獲得し、益々の発展を期す私達であります。

☆ドキュメント、ザ・六連運動会

恒例の六連運動会が、今年も風薫る緑豊かな大阪城公園にて行なわれた。昨年3年連続最下位の偉業を成し遂げたわが同グリーは、今年も定位置を死守すべく、武庫女コーラス部と共に闘いを挑んだが、ラジオ体操の時にビールを飲むなど早くも無気力を発揮。トラ

ック競技もふるわずあきめの色が濃くなった同グリー陣営だったが、それを救ったのが祭り好き武庫女GALだった。

11人12脚では軟弱グリーメンをリードし2位に導く健闘を見せた。これに発奮したのが、続く指揮者・部長レースでは、日頃こういったイベントを白眼視していた指揮者K氏が、野球部時代の面影をしのばせる力走で3位入賞、人間椅子取りでの武庫女の活躍、騎馬戦での「非暴力・不従従」作戦の成功等着実に得点を重ね、奇跡的なAクラス入りを果たした。

しかし、歓喜のバンザイコールの影に、最下位に終わった昨年の応援女子大、神戸女学院GALの冷たい眼差しがあったのをグリーメンは知る由もなかったものであった。(by六連サブU)

☆京都合唱祭

今年も、京都府会館で、盛大に合唱祭が行なわれた。はっきり言って私は、この日があまり好きではない。なぜなら、この日は決まって五月晴れのよい天気となり京都府会館に着く頃には、あたりはポカポカした陽気となっているからである。私は、家族連れと行楽客や、楽しそうに話しているカップルとすれちがうことに、思わず私もどこか遊びに行ってしまうなどと、考えるのだが、平安神宮の真っ赤な鳥居を過ぎるあたりから、ひとめで合唱をやっているとおぼしき集団にぶち当たる。ウツ暗い男声合唱団は特にだ。美しく晴れ上がった青空と、みことなコントラストを描いている。私は、彼らとは、他人だという顔をしながらも、悲しいかな、自分も彼らと違わないことに気づくのだ。

そして、わずか5分のステージであるが、同業者の目に、うちふるえながら、自信たっぷりの顔をして歌うのだ。こんな自分がいやになります。そして演奏後に友人から「よかったよ」などとおせじを言われ、私は、神妙な顔で「たいしたことないよ」と返事をします。太陽が、私を笑っているようでいやです。

☆同関交歓演奏会・東西四大学合唱演奏会

毎年、東京・大阪と舞台をかえて開かれる四連、第34回東西四大学合唱演奏会が、6月8日東京厚生年金会館大ホール、9日東京文化会館大ホールに於て行なわれました。東の早稲田グリー、慶応ワグネル、西の同志社グリー、関学グリーの四団体が構成される四連は、名実共に日本のアマチュア合唱界最大のイベントであります。また、東京で四連のある年に行われる同関、第11回同関交歓演奏会も6月5日大阪フェスティバルホールにて行なわれました。

同関・四連共に福永陽一郎先生の指揮でG・ドニゼッティ作曲「MISERERE」(本邦初演)を演奏し、同関指揮者ステージでは男声合唱の名曲中の名曲「月光とピエロ」を演奏しました。特に四連では、各団熱のこもった演奏をくりひろげる中、我々同志社の、「MISERERE」は異形を放つ秀作と大好評を博しました。また、合同演奏では、指揮者に三林輝夫先生、ピアノ伴奏に田中瑠子・中野明子両先生をむかえ「デュバルク歌曲集」を演奏いたしました。日頃、歌う機会が少ないフランス歌曲を歌い、グリーメンにとって思い出の深い演奏会となりました。演奏会終了後の打ち上げでは、ステージではライバルであった団員達も、一緒に肩を組みながら歌

い、喜びを分かちあう友となり、来年の大阪の四連での再会を誓いあうのでした。そして、その後の二次会、早稲田グリーメンの引車のもと東京の夜のネオン街へと消えて行ったのでした。

☆演奏旅行

今年の演奏旅行は、7月30日の広島を皮切りに、31日大分、8月1日佐賀、2日福岡と4日間連続コンサートで、移動に次ぐコンサートに次ぐ移動に次ぐ…、という具合でしたが、各地、熱烈的な歓迎ぶり、コンサートは連日満席、大喝采、ホテルは5つ星級、食事は最高、本当に素晴らしい、かつ恵まれた演奏旅行でありました。

これも同志社校友会、グリークラブOBその他の方々、また福岡においてはジョイントをしました九州大学コール・アカデミーのご尽力の結果でありまして、大変感謝しております。

どの地のコンサートも非常に印象的でありましたが、特に佐賀におきましては、ホールは比較的小規模であったものの、立ち見が出る程の超満席で、1曲歌うごとに(1ステージごとではなく)大きな拍手が起き、コンサート終了後も、ホールの外で私たちのストームに多くの人々が何度も惜しみない拍手を送ってくださいました。そして、これこそ演奏旅行冥利に尽きるものだと、グリーメン一同、感無量でありました。P.S. ちなみに、この演奏旅行の大成功によって、マネージャーのF氏は「マネージの父」と、皆から崇められるようになりました。

☆関西六大学合唱演奏会

11月3日、大阪フェスティバルホールに於いて第12回関西六大学合唱演奏会が行なわれました。今年是我同志社グリークラブが幹事校であるということで、皆張り切っていたのですが、今年の六連マネはキャストスケベの集団であることが団内で噂に流れ(そんなことはありませんが)当日に不安を感じるものもいたようですがさすがに面白い演奏会に終わったと思います。

単独ではR. Straussの「愛の詩集」を演奏し好評を博しました。演奏直後の前学指揮T氏のブラボーはその特徴的な声のためか、ステージ上の我々にもはっきり認識できたことをつけ加えておきます。また特筆すべきことは、六連演奏会のメインはやはり合同であるとのスローガンのもと、オーケストラ界での新進気鋭の小松一彦先生に合同ステージの指揮を、また関西フィルハーモニー管弦楽団に管弦楽伴奏をお願いし、ケルビーニの「レクイエム d-moll」を演奏したことで、アンコールの「フィンランディア」では感激のあまり涙するものまで現れ、忘れられない演奏となりました。小松先生を初め、関係各氏に感謝の気持ち一杯です。ありがとうございます。

なお私事ではありますが、時には喧嘩し、時には飲み明かした5人の素晴らしい六連マネにも感謝したいと思います。一年間ありがとうございます by元六連幹事

☆お座敷

グリーライフには所謂普通のコンサート活動以外に「お座敷」と我々が称している演奏活動があります。今年も昨年同様のハードな練習日程と重なり大変でしたが、同志社グリー

一の演奏を、また男声合唱の魅力を一人数でも多くの方にという信念の下、精力的に取り組んできました。具体的には、ラジオ・テレビ出演、各種イベント、パーティーでの余興、結婚式、高校や小学校、幼稚園などの音楽鑑賞会等々への出演です。最近特筆すべきは、歪んだプロ意識を身につけた昨年のクリスマスの某Rホテルのディナーショー出演、美女の後姿のみに魅せられ、出演中眠る者まで出たミス・ユニバース全国大会(全国ネット)そして紅葉には程遠い吉野山中を一時間にもわたって黒靴、黒ズボンで泥だらけになり徘徊した金峯寺蔵王堂落慶法要etc.しかしこのようなお座敷はクラブの財政を支える重要な柱でもあります。

今年、同志社グリークラブを呼んで下さった皆様方、誠にありがとうございました。

今後とも、また何かありましたらお気軽にTelして下さい。可能限り、どこへでも出張させていただきます。Tel075(451)9725 同志社グリークラブテレフォンサービスセンターまで。(by Jun)

☆合コン・合ハイ

日頃、男所帯にうじがわく練習場で、歌ばかり歌っているグリーメンの唯一の心のやすらぎは、なんといっても女子大との合コン・合ハイにあります。「歌も歌えんと合コンばかりしやがって…」という技術系の嘆きもなんのその、今日も梅田へ足が向いてしまう我々グリーメンなのです。(男の性は悲しい…)

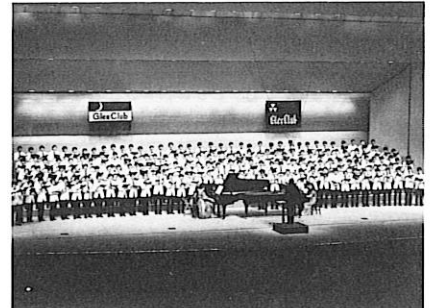
今年も忙しい練習の合い間をぬって、春先の京女コーラス部を皮切りに、数多くの合コンを行なってまいりました。しかしながら、六連アンケートの結果が示すように、自称「紳士」の同グリーは、「お熱いのが好き」な女子大生を苦手とするようで、合コンに出席しながら沈黙を守る者や、女性に見つめられると顔を真赤にしてうつむく者も続出するなど毎回、今いち盛り上がりにつけ、口は出さない、手は出せない、相手にされない同グリーとの評判が合唱界にとどろき、女子大生を欲求不満に陥れられるのでした。

今では噂が噂を呼び、同グリーは不能者の集りだとか〇モ集団だとかいう怪情報まで流れる始末。少しは某国立大学や、衣笠山大学を見習って、積極的かつ果敢なアプローチをみせてほしいものと合コンを企画する者として思います。そういった中において、今年の一部一回生の合コン好きには一目置くところがありました。各女子大の皆様方、来年度のグリーメンの奮起に期待されるようお願い致します。

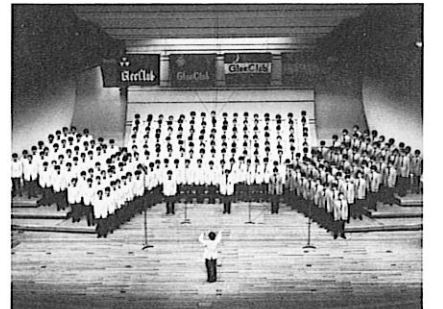
☆全同志社メサイア演奏会

京都の山々が紅葉で鮮やかに色どられる頃私達グリーメンの所持品(ほとんどが楽譜ですが)の中にあの重いメサイアの楽譜が加わります。御所(同志社大学の隣にあります)の中の児童公園では、必死でメサイアの譜読みをする1回生。枯れ葉が1枚落ちるごとに1ページ1ページ、この公園が落葉で一面覆われる頃、彼らは白い息を出しながら全曲譜読みを完了するのであります。

12月24日京都府会館第1ホール開演6:00。私達グリーメンのクリスマスがやって来ます。すばらしい一夜(きよしこの夜)



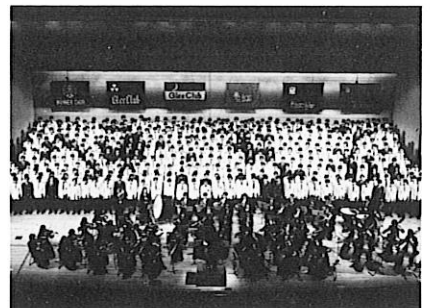
同関交歓演奏会



東西四大学合唱演奏会



演奏旅行



関西六大学合唱演奏会



全同志社メサイア演奏会



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤

☆グリーンメンとSPORTS

10月6日(月)、関西学院中学グラウンド
同志社グリーン 0 | 0 | 2 | 0 | 4回
関学グリーン 0 | 1 | 0 | 0 | 雨天コールド
勝辻本1勝 敗三木1敗 [勝利打点]吉岡
時間40分 観衆5万8千 ホームランなし

これは第1回同関交歓会のソフトボール大会の結果です。両校セレクトメンバーを集めた迫熱の好ゲームでありました。この他の学年2チームずつによるトーナメント戦では、一回戦で同グリーが全勝してしまっただけ、一気に盛り下がってしまいました。やはりKGには荷が重すぎたようです。もっと練習を積んでからかかってほしい。合唱界の阪神タイガース同志社グリーの強さを見つけたソフトボール大会でした。この交歓会とは、前日の夜より、同グリーが上ヶ原にくり出しKGの下宿生たちに分宿させてもらい、翌日、朝からソフト、夕方飲み会で幕という画期的なもので同関80年の歴史に大きな汚点を残すものとなりました。分宿では各自様々な夜を過ごしたようです。一晩中合唱について語り合うもの、飲み明かすもの、すぐ寝るもの、愛を芽ばえさせたものなど実に素晴らしい(おぞましい)一夜でした。特に酒場と化したKG3年S氏の下宿では、KG次期部長K氏が酔っぱらったあげく、皆からいじめられトイレにはめられ、そのまま行方不明になってしまいました。誰も心配しませんでした。イヤ、KGってホントに恐ろしいですね。また、2年生で深夜ドライブしたまでは良かったのですが、帰ってみると下宿は同グリーンに占領されそのまま住みつかれてしまったものもあるそう。その他、男好きが多いウワサのKGグリーンメンを前にタジタジとなった同グリーンも少なくないという話です。色々ありますが、翌朝には全員グラウンドに揃い、元気にソフトをし、夕方からは思いきり飲みました。飲み会では、KGでは恒例となっているらしい野球拳が始まり、同グリー1年生O氏はあわやスッポンポンになるところでした。そして数々の合唱があり、最後にエールを交換し、同関交歓会は幕を閉じたのであります。色々書きましたが、ご迷惑をかけたKGの皆さん、ホントにどうもありがとうございます。来年は京都でやりましょうね。(どうせサブの仕事や。オレ知らんもね。by 交歓会チーフマネO)

あまりスポーツについてはふれてませんが、同グリーンには実に多くの体育系クラブ出身者がおり、内部ではサークル化しようという動きもみられます。ソフトを初め、テニス、スキーはもちろん、ラグビー、サッカー、剣道、卓球、ゴルフ、ハンドボール、ハイキング、なわとび、麻雀、将棋、トランプと各種とりそろえてありますので、試合を申し込まれる方、サークルを作りたい方は是非ご連絡を!

☆グリーンメンと女

グリーンメンと女というタイトルで何か書けといわれても、まあ女性には縁がないのが大部分(特に3年生)でありまして、例えばコンパでも女子大には紳士の同志社で通っているくらい(たぶんイヤミでしょう)で、合唱の話をする者(外政M)、合唱をしたがってソロを歌いたがる者(内政M)、カエルの解剖の話をする者等、これでは女性にもてる訳はない!

それでも運動会ときはラッキーした者が沢山いたようで、女性に腰かけられてニヤニヤしているSecH(写真②参照)や、また、

マネージをかさにきて、相手のマネージャーと仲良くなろうとした外政M等、中には許しがたい者もいたようです。

昔は女性関係に関しては猛者が沢山いたグリーンクラブですが、今ではそういう人間は少数派になってしまいました。しかしやはり、男に走るケースも昔からあるようですが、それも最近はないようで、とりえず健全なグリーンクラブですから、女性の皆様、お気軽に遊んでやって下さい。

☆グリーンメンと歌

グリーンメンと歌というのは切っても切れない関係にあります(あたりまえですが)。写真③は、夏の演奏旅行で地方のカメラマンの人が、何を勘違いしたのかステリハの合間にくつろいでいる我々を写したものです、縦横の後ろではこのような姿をしているわけです。(但し本日、シンフォニーは縦横がありませんあしからず)

次に写真④ですが、これはお座敷に向かう途中で、速々と山道を歩いて、黒くつを泥々にしながらも(このつかれた表情に注目)行った時の写真です。このようにグリーンメンはご要望がありましたらどこへでも歌を配達しにせまるといって一歩です。

以上、左の写真のコメントを少ししたわけですが、1年中、殆んど歌わない日がないという位で、中毒みたいなものです……。

☆グリーンメンと酒

酒を飲む機会というの是一年中ありまして、酒びたりの人間も少なくありません。

まず一回生の春、やさしそうな先輩に誘われて軽く一杯、しかしその後は、恐怖の新歓コンパが行なわれ、そこで上級生は豹変するのであった。名物高校のエールに始まり、(ヒット曲には古くは黒鉄の力、最近では安積高校のチャカホイ節があります。)一気一気の連続で天井むいて吐く者、パンツを脱ぐ者(Bari T) 鴨川に眼鏡を流す者、救急車で運ばれる者(Bari K)等続出しました。

まあ、その後、パートコンパ、就職祝いコンパ、忘年会、フェアウェルコンパ、不定期に行なわれる陽ちゃん先生を囲む会、等がありこれが主だったクラブでの飲み会で、それ以外にも毎日のように下宿で飲んだりしてグリーンメンと酒とはやはり切ってもきれない関係にあり、中には飲み屋のバイト頭になら出た世したBass Nのようなものもいます。

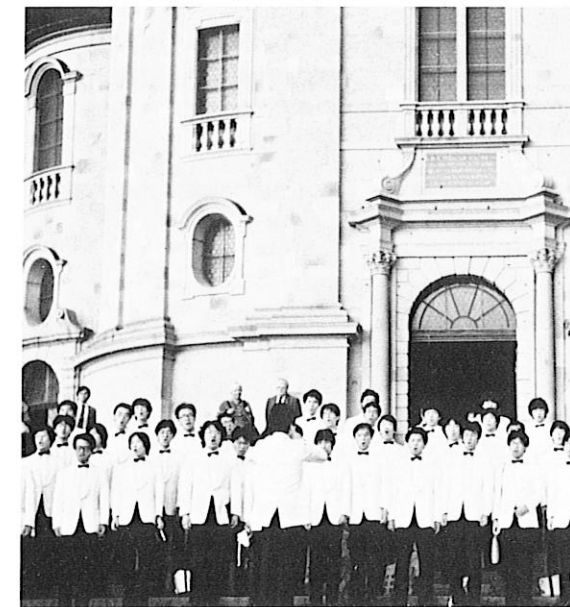
初めは飲めない人間も4年生になるころにはすこい飲みっぷりになります。(写真⑤参照)まあこれもグリーンメンの悲しい性でしょう。安い酒ばかりでなくてたまにはええ酒が飲みたい!

同志社グリーンクラブ

1986年 欧州演奏旅行のお知らせ

私たち同志社グリーンクラブは、来年の2月より1983年に次いで、再度、ヨーロッパを訪れます。今年も例年通り、同関演奏会、四連、国内演奏旅行、関西六連、定期演奏会、また4日後には、今年最後のステージであります全同志社メサイア演奏会を残しておりますが、非常にあわただしく過ぎていった1年でありました。このような状況の中で、さらに欧州演奏旅行という大事業を行なうのは、並大抵のことではありませんが、合唱の本場ヨーロッパの数ある魂力が、多忙の身である私達をなお奮い立たせました。

前回は、1983年の夏、四連の大成功後、技術面もムードにおいても、最も充実した状態でヨーロッパ(スイス・オーストリア・ハンガリー)を訪れ、各地において、非常に好評を博しました。その後、同志社グリーンクラブは、ヨーロッパでの経験を良き糧とし、やがては80周年定期演奏会に実を結ばせ、近年において類いなきほどの盛況ぶりをみせました。



新しい同志社グリーンクラブの出発として、ヨーロッパを訪れます。来年は、同志社大学の田辺移転のため、学生が今出川校舎と田辺校舎に分断され、同志社グリーンクラブにとりましても、新たに大きな試練の中に立たされるわけですが、私たちはこのグリーンクラブの新しい歩みを始めるスタートとして、欧州演奏旅行を計画しました。

例年、4年生が卒団されてしばらくの間は、あらゆる面で不安定な時期であるのですが、欧州演奏旅行を目標に、3年生以下、結束を固め、努力することにより、この演奏旅行を、同志社グリーンクラブの新しい局面を乗り切るための良き糧にしたいと思っております。

今回の演奏旅行は、同志社大学の姉妹校であります西ドイツのマインツ大学の行事のひとつである大学礼拝の礼拝奉仕より始まり、その後、バロック文化で有名なマンハイム、ハイデルベルク、京都市の姉妹都市でありますケルン、またかつて大学合唱団がほとんど足を踏み入れたことのない、クラシック音楽の宝庫であります東ドイツの東ベルリン、ドレスデン、ライブチヒを訪れ、さらに前回、好評を博したことにより、再び招待いただきましたスイスのバーゼル、チューリヒ、リシュリコンにも訪れます。今回も、前回同様、キリスト教精神の同志社大学の特色を生かし、各地の教会を巡るコンサート、礼拝奉仕を主体としております。



〔スケジュール〕

- 期 日 1986年2月20日(木)~3月13日(木)
- 演奏会日程
- 2.23 マインツ大学の大学礼拝に参加 [クライスト教会]
 - 2.24 マンハイムにてバッハ・ギムナジウムと交歓演奏会
 - 2.26 ハイデルベルクにてコンサート [プロビデンツ教会]
 - 2.28 ケルンの日本文化会館にてコンサート(交渉中)
 - 3. 2 東ベルリンにてコンサート
 - 3. 4 ドレスデンにてコンサート(交渉中)
 - 3. 6 ライプチヒにてコンサート(交渉中)
 - 3. 8 バーゼルにてコンサート [エリザベト教会]
 - 3. 9 チューリヒにて日曜礼拝に参加 [グロスミュンスター教会]
 - チューリヒにてコンサート [ウンターシュトラウス教会]
 - 3.11 リシュリコンにてコンサート [リシュリコン教会]

京都ホテルで素敵な思い出を



交友を広げて

春・夏・秋・冬。めぐる季節の中では実に多彩に人々と集う機会があります。それらのステージがより思い出深いものとなりますよう、京都ホテルではパーティ演出のお手伝いいたします。また、出張パーティーのプランニングも承ります。交友を広げる楽しいひとときのためにぜひお気軽にご利用ください。

京都ホテル 京都市中京区河原町御池 ☎(075)211-5111

レパトリーは 愛の二重奏から夢のシンフォニーまで。



あなたの街の **玉姫殿**

SAM Records

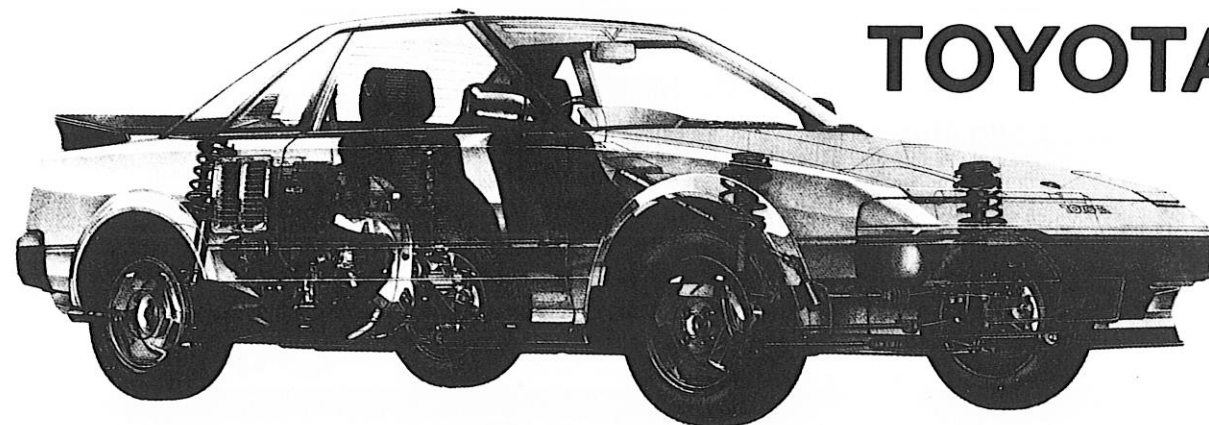
●レコード・テープに残しておきたいあらゆる企画に御用命下さい●

録音全般・各種レコード製作

株式会社 阪神ライフレコーディング

〒651 神戸市中央区上筒井通5丁目2番10号 ☎(078)241-1899(代)

TOYOTA



トヨタカラー南海株式会社

〒592 堺市浜寺諏訪ノ森町西1丁目7番地
TEL. 0722-61-8881 代表

トヨタカラー新大阪株式会社

〒532 大阪市淀川区東三国3丁目10番21号
TEL. 06-393-0121 代表

トヨタオート南海株式会社

〒592 堺市浜寺諏訪ノ森町西1丁目24番地
TEL. 0722-63-2021 代表

●取扱車種 カラー、セリカ、カムリ、カラーII、タウンエース

●取扱車種 チェイサー、スプリンター、スターレット、MR-2、ライトエース

トヨタビスタ南海株式会社

〒592 堺市浜寺諏訪ノ森西1丁目5番地
TEL. 0722-62-8888 代表

トヨタビスタ新大阪株式会社

〒572 寝屋川市池田北町15番25号
TEL. 0720-28-1331 代表

●取扱車種 クレスタ、ビスタ、ターセル、MR-2、ハイエース、プリザード

京都祇園ホテル

忘・新年会プラン

幹事さんラクラク

お料理を囲んでの楽しい忘年会・新年会は
京都祇園ホテルを、ぜひご利用ください。
シェフが腕をふるった、おいしい料理の数々があなたの
パーティを和やかに盛りあげます。
交通も散集に便利な祇園・八坂神社石段下。
幹事さんの強い味方の
忘・新年会プランです。

お1人様 ¥5,000 (税・サ込)

※ビール1本またはジュース2本つき

卓上花・カラオケ無料サービス!
さらに お1人様プラス1,000円で……
ビール・ウイスキー・ジュース
飲み放題!
※但しご利用時間を2時間と
させていただきます。

●MENU●

オードブルの取合せ / いかのから揚げスペイン風
コールサーモングリーンソース / スモールハンバーグの煮込アメリカン風
ビーフのアスパラ詰めロール焼き / コールポークアップルソース
バーベキューチキン玉子添 / むしシューマイ
チキンのから揚げ / ハムとガランチン / シェアサラダ
サンドウィッチ / 細巻 / フルーツ

※料理の内容は季節により変更させていただく場合もあります。

期間 / 11月1日(金)~
昭和61年2月28日(金)

「京のこころにふれる」
京都祇園ホテル
祇園・八坂神社石段下

お問い合わせ・ご予約は ☎(075)551-2111

PS osaka photo

(株)大阪フォト サービス カンパニー

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17
TEL 06(443)7608(代表)

レストラン ポパイ



本店 (府庁前)
4F 麻雀 ☎221-1002
3F 囲炉焼 ☎241-3860
2F 喫茶・お食事 ☎221-3594
職員会館 (京都府庁内)
☎431-9945
9968

すし部 (丸太町通り新町西入)
☎222-1446

営業品目

■ピアノ・電子オルガン・管・弦・打楽器・教育用楽器・楽譜
サンホール・音楽教室

—ピアノ55年—

株式会社 **旭堂楽器店**

☎604 京都市中京区寺町通夷川上ル
(075) 231-0538(代)

グランドピアノ・アップライトピアノ・オルガンその他 <ピアノ専門運送>
調律・クレーン作業も承ります。

APS 旭 ピアノ サービス

親切、安心料金すぐ電話下さい!

京都営業所 ☎(075)462-4440 京都市右京区鳴滝蓮池町4の4
滋賀営業所 ☎(0775)24-5898 大津市浜大津2丁目3-4

この1年のあゆみ

- 1984年12月20日 創立80周年記念定期演奏会
- 22~25日 ディナーショー出演
- 23日 滋賀水口教会クリスマス礼拝
- 26日 第20回全同志社メサイア演奏会
- 1985年2月16日 第80回卒業生のためのフェアウェルコンサート
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列
- 22~27日 春季合宿
- 29日 '85ミスユニバース全国大会出演
- 4月5・6日 同志社大学入学式参列
- 30日 洛中ロータリーレセプション
- 5月2日 「11P.M.」出演
- 3日 関西六大学合唱連盟運動会
- 4日 対面式
- 12日 ライオンズクラブ
- 26日 第22回京都合唱祭
- 6月5日 第12回同志社グリーンクラブ・関西学院グリーンクラブ交歓演奏会
- 8日 第34回東西四大学合唱演奏会
- 9日 第34回東西四大学合唱演奏会
- 7月29日 広島県立賀茂北高等学校校歌レコーディング
- 30日
- ~8月2日 演奏旅行
- 30日 広島演奏会
- 31日 大分演奏会
- 8月1日 佐賀演奏会
- 2日 同志社グリーンクラブ・九州大学コールアカデミー Joint Concert
- 27日
- ~9月1日 夏季合宿
- 9月12日 奈良県立耳成高校文化祭出演
- 20日 京都織物商組合年次総会レセプション
- 23日 宝酒造社名変更披露会出演
- 26日 姫路玉姫殿オープニングセレモニー出演
- 28日 W・ダルマン先生パイプ・オルガン演奏会賛助出演
- 10月14日 金峯寺蔵王堂落慶法要参加
- 20日 同志社中学高校同窓会出演
- 11月3日 第12回関西六大学合唱演奏会
- 9日 アジア障害者リハビリテーションシンポジウム
- 24日 新島会館落成式・同志社大学リユニオン
- 30日 テレビ大阪青春讃歌コンサート出演
- 12月20日 第81回定期演奏会
- 22日 ディナーショー出演
- 24日 第21回全同志社メサイア演奏会
- 1986年2月15日 第81回卒業生のためのフェアウェルコンサート

- 大阪・ザ・シンフォニーホール
- 大阪・ロイヤルホテル
- 水口文化芸術会館
- 京都会館第1ホール
- 同志社大学会館ホール
- 同志社栄光館
- 小豆島・ホテル海南荘
- 大阪・ザ・シンフォニーホール
- 同志社栄光館
- 京都ホテル
- 大阪・読売テレビ
- 大阪城公園Aグラウンド
- 京都教会
- 京都国際会館
- 京都会館第1ホール
- 大阪・フェスティバルホール
- 東京厚生年金会館大ホール
- 東京文化会館大ホール
- 同志社女子大学同窓会館

- 広島郵便貯金会館ホール
- 大分県立芸術会館ホール
- 佐賀県立美術館ホール
- 福岡・電気ホール

- 長野・志賀一井ホテル
- 奈良・耳成高校
- 京都グランドホテル
- 国立京都国際会館
- 姫路・玉姫殿
- 同志社大学神学館チャペル
- 吉野・金峯寺
- 同志社中学
- 大阪フェスティバルホール
- 京都社会福祉会館
- 新島会館
- 森ノ宮ピロティールホール
- 大阪・ザ・シンフォニーホール
- 大阪・ロイヤルホテル
- 京都会館第1ホール
- 同志社大学会館ホール

同志社グリーンクラブ

第81回卒業生のための送別演奏会

1986年2月15日(土) 5:30PM 開演

同志社大学会館ホール (入場無料)

メンバー紹介

顧問 遠藤 彰
 技術顧問 福永陽一郎
 指揮者 富岡 健
 ヴォイスレナー 大久保昭男

幹事長 高梨 純
 学生指揮者 神谷 伸行
 学生副指揮者 中村 洋
 TOP P.L. 尾池 智治
 サブ 富倉 智彦
 SEC.P.L. 竹本 滋知
 サブ 成田 宏司
 BARI.P.L. 灰塚 弘
 サブ 山口 明彦
 BASS.P.L. 田中紳一郎
 サブ 杉山 慎一
 内政 三宅 厚志
 外政 松本 裕士
 奥野 和敏
 高木 憲治

サブ 石井 元博
 辻本林一郎
 上村 直也
 ステージ 大野 浩一
 サブ 奥村 康彦
 会計 山下 浩司
 サブ 井上 裕文
 中西 健
 演奏旅行 内山 透
 サブ 万代 優
 資料OBサブ 大塚 正高
 文連常任委員 梅田 隆司
 メサイア 杉田 政治
 干場 一博
 佐伯 盛一



TOP TENOR

小林 正明 (法4) 高 槻	小杉 泰幸 (法4) 室 蘭 栄	二宮 孝之 (経4) 星 陵	尾池 智治 (法4) 泉 陽
大畑 泰年 (工4) 旭	山田 成彦 (経4) 湘 南	松本 裕士 (工3) 同志社香里高	前川 立弥 (商3) 関西大倉高
三宅 厚志 (法3) 浦 和 高	富倉 智彦 (工3) 同志社香里高	山下 浩司 (経3) 関西大倉高	干場 一博 (工2) 京大付属高
石井 元博 (商2) 同志社香里高	桃井 茂樹 (法2) 安 積 高	中西 健 (商2) 伊 勢 高	八幡 論 (商2) 県立芦屋高
樋上 慎二 (法1) 同志社高	加藤 由孝 (法1) 名古屋学院高	木寅 潤一 (法1) 同志社香里高	松本 千尋 (文1) 川 越 高
中西 智久 (法1) 桂 高	野村 英也 (商1) 井 口	大島 直哉 (文1) 緑 岡	

SECOND TENOR

福原 伸司 (工4) 井 口 高	木下 勝 (法4) 星 稜 高	久保 行央 (経4) 同志社香里高	中村 健史 (法4) 紫 野 高
斎藤 斎 (経4) 同志社香里高	竹本 滋知 (法4) 国 府 高	成田 宏司 (工3) 四日市高	大野 浩一 (工3) 愛 光 高
杉田 政治 (工3) 同志社香里高	高木 憲治 (商3) 東 山 高	高梨 純 (法3) 東 豊 中 高	藤本 俊孝 (経2) 県立今治西高
林 桂三 (工2) 瑞 陵 高	万代 優 (経2) 東 山 高	奥村 圭司 (商2) 名古屋北高	奥村 康彦 (商2) 菊 里 高
大塚 正高 (商2) 長 良 高	吉田 照彦 (工2) 比 叡 山 高	土居 敬幸 (経1) 大手前高	瀬戸 正己 (工1) 長 田 高
田中 祐之 (文1) 乙 訓 高	栃木 義博 (経1) 泉 陽 高	安池 倫成 (商1) 静 岡 高	

BARITON

藤野 寿男 (工4) 山 口 高	灰塚 弘 (工4) 同志社香里高	神谷 伸行 (文4) 中 村 高	森永 浩樹 (文4) 綾 部 高
小木曾信之 (工4) 長 良 高	斉藤 高弘 (文4) 藤 島 高	藤 浩和 (経4) 筑 紫 高	内山 智之 (法4) 鎌倉学園高
草野 真視 (商3) 西南学院高	奥野 和敏 (商3) 上 宮 高	梅村 雅彦 (経3) 門 真 西 高	内田 透 (法3) 大阪三島高
山口 明彦 (工3) 高松西高	一慶 (経2) 乙 訓 高	佐々木義治 (商2) 彦根東高	辻本林一郎 (商2) 津 西 高
上村 直也 (文2) 福 岡 高	梅田 隆司 (経2) 北 野 高	吉岡 康彦 (法2) 若 狭 高	古川 偉久 (経1) 東 海 高
金森 勝徳 (商1) 春日井高	西川 善大 (経1) 関西大倉高	野村 忠司 (工1) 向 陽 高	高瀬 毅 (工1) 金沢二水高
辰己 昇 (商1) 清 風 高			

BASS

遠藤雄一郎 (工4) 米子東高	加藤 栄嗣 (法4) 米子東高	小西 正俊 (商4) 同志社香里高	松浦 悟史 (文4) 東 大 津 高
田中紳一郎 (工4) 住 吉 高	植田 禎一 (法4) 郡 山 高	中村 洋 (文3) 同志社高	内田 茂晴 (工3) 山 崎 高
杉山 慎一 (経3) 同志社香里高	青木 陽介 (商2) 箕 面 高	井上 裕文 (商2) 龍 野 高	片淵 信行 (法2) 紫 野 高
真鍋富太郎 (経2) 観音寺第一高	森藤 泰生 (商2) 丸 亀 高	沖原 吉広 (経2) 次 木 高	佐伯 盛一 (文2) 同志社香里高
武内 和朋 (文2) 日 田 高	雨宮 信 (文1) 三 重 高	市丸 正之 (法1) 高槻北高	内田 勲 (商1) 井 口 高
渡辺 一郎 (工1) 同志社国際高			



高 奥 松
木 野 本

最近、時のたつのを恐いほど速く感じます。多分、今この編集後記を書いている日から怒濤のような速さで今日、定期演奏会を迎えていることでしょう。パンフ編集員としては、原稿の集まりが悪く、眠れない日も続きましたが、最後の入稿を済まし、一息ついた思いがしています。なにはともあれ今日の演奏会、ステージ上ではマネージもなにかも忘れ、ただひたすらよい歌を歌いたと思います。

最後になりましたが、今年のチラシ、パンフ表紙作成にあたりヨーロッパのオペラ、演奏会のパンフをお借し下さった、西垣先輩を初めOBの方々、快く原稿依頼に応じて下さった諸先生方、その他関係各位に、この場を借りてお礼申し上げます。今後とも同志社グリーンクラブをよろしくお願い申し上げます。

いま、出光は、総合エネルギー企業へ。

「知恵」は、無限のエネルギー。

新しいモノをつくりだそうとする自由な発想とひたむきな努力は、ときとして、知識を超えた素晴らしい「知恵」を人間に与えてくれます。出光は、こうした「知恵」こそが、あすをひらく限りないエネルギーになると信じています。

私たちの暮らしを支えている大切な石油。出光は、この石油の安定供給はもとより、日本のエネルギー資源確保というテーマに向って、海外では石炭開発・ウラン開発、国内では地熱開発などにも積極的に取り組んでいます。

出光は、これからも企業の知恵を結集し、石油を中心とした総合エネルギー企業をめざし、努力を続けてまいります。

出光

出光興産株式会社



The Symphony Hall

なにかが変わる。予感が聴こえる。

■オルガン

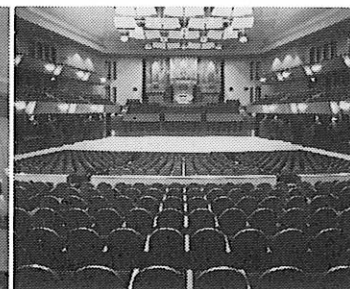
スイス・クーン社製。54ストップ。オルガンを使う楽曲が理想の姿で演奏できます。

■アリーナ・シアター

残響2秒、ピロートの響きがすべての席を覆いつくし、ステージと客席は一つに溶けあいます。

■グランド・ホワイエ

中央に吹き抜けを持つ二層の優美な空間。音楽へと続くプロムナードです。展示会や小さな集会もできます。



ザ・シンフォニーホール
朝日放送

〒531 大阪市大淀区大淀南2丁目

ご利用のお問合せ 06-453-1010

入場券のお問合せ 06-453-6000

目標を決めて、さっそく積み立てを始めましょう。

きっぷ1枚から海外旅行まで

旅行券の使い途はとってもワイド

たびたび

この前払いプランは

- ①ラクラク毎月積立て。そのうえサービス額もつきます。
- ②お支払いは便利な自動引落し。
- ③積立期間は6ヵ月から60ヵ月のうち自由設定で。
- ④お求めいただく旅行券の使い道はワイドです。
- ⑤個人旅行から団体旅行まですべてのプランに
- ⑥一時払いコースもあります。

日本交通公社 京都支店

運輸大臣登録一般旅行業第64号

〒600 京都市下京区東塩小路町

たびたびのお問合せ

☎075-341-2141へ

